2006年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	山崎充彦

【講義概要・学習目標】

「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけで以てこと足りるものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。

この講義では、まず、担当者が、「歴史的なものの見方とは何か」について述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。

【授業計画】

・担当者の講義

総論：

1、歴史研究の持つ問題性

2、ヨーロッパ中心史観の問題性

3、現代史をどう解釈するか。

4、歴史学における「政治的なるもの」

各論：

5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の歴史

6、ナチのユダヤ人政策の背景とその実態

7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議

・ヴィデオ上映:

歴史教育、ナチズムなどに関するヴィデオを複数回観てもらう。

【成績評価の方法】

成績評価は、定期試験のみで行う。

この講義では、出欠調査は一切行わない。従って、出席カード配布だけを目当てに教室に来ても時間と労力の無駄に終わるであろう。

授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。

近年、受講者数の増加に伴い、受講態度の悪化傾向も顕著となっており、担当者としては、極めて憂慮すべき事態であると考えている。

講義を真摯に聴こうとする者のみ、登録・履修され、教室に来るように真剣に望む。

受講態度が悪い場合、退室を命じることもあるので十二分に、留意・覚悟して、登録してもらいたい。

【テキスト】

特定の教科書は使用しない。

【参考文献】

授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。

1、栗原優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策
—ホロコーストの起源と実態』、ミネルヴァ書房

2、西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」
の真実』、日新報道

3、ハーバーマス、ノルテ他著、
『過ぎ去ろうとしない過去』、人文書院

科目名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	坂昌樹

か行

【講義概要・学習目標】

これは教職を中心にした授業です。

社会科教育をおこなううえで必要な考え方や教え方に重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。

授業では、教育実習にあわせた高校用教科書を使っての模擬授業や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論などをおこないます。おもに教員免許の取得をめざす学生の参加が望まれます。

学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の社会状況にも言及しますが、これらの問題の歴史的背景の考察や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。

【授業計画】

Ⅰ．導入：外国史の課題

Ⅱ．教育実習に向けて

① 模擬授業
高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討

Ⅲ．過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用）

① 社会的マイナリティーの歴史
ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者

② 歴史教育を考える
歴史教科書と歴史観の問題

（状況によっては、ⅡとⅢを入れ替えるかもしれません。）

【成績評価の方法】

出席を重視します。さらに授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより、総合的に評価します。（ただし、履修登録者が多数の場合、評価方法を変更することもあります。）

【テキスト】

指定しません。

【参考文献】

『詳説　世界史』（高校用世界史教科書Ｂ）山川出版社

【備考】

連絡先：（研究室）アンデレ館７階725室

（tel）0725-54-3131（内線）3725

（Email）ban@andrew.ac.jp

面談：在室中は、随時可能です。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
11	通期	4単位	石　黒　亜　維

【講義概要・学習目標】

「東アジア共同体」構想が具体的に議論されつつある今日、その中でも特に日本と中国の関係は特に重要とされている。その一方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題が存在し、今や「政冷経冷」となろうとしている。このような状況を中国のマスメディアはどのようにとらえているのであろうか。本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌等の記事から、日中関係に関する記事を中心に講読し、中国に対する理解を深め、日中間の相互認識の特徴をとらえることを目標とする。

【授業計画】

中国国内で発行されている新聞、雑誌の記事を中心に輪読する。

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【テキスト】

オリジナル教材として開講時に配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
12	通期	4単位	田　村　　剛

【講義概要・学習目標】

近年、農村地域経済の活性化のための政策手段として、ルーラル・アメニティの維持・保全が注目されている。ルーラル・アメニティには、例えば自然のままの原野や手入れされた景観など、さまざまなものがある。またそれらは地域固有性を有し、その地域の生活、生産活動、自然環境だけでなく、文化や伝統とも深く結びついている。

しかし、ルーラル・アメニティは公共財や外部性などの特質を有しているため、その維持や保全がされにくい。しかも活性化の仕方次第では、ルーラル・アメニティの水準を低下させる可能性がある。

本外国書講読では、農村地域経済の活性化を図る上で重要となる環境保全の問題として、ルーラル・アメニティの維持・保全に着目し、OECD諸国の先進事例を通じて、その概念や取組内容について吟味していく。またテキストの輪読を行うことにより、英語の読解力を高めることも目標とする。

【授業計画】

テキストの順序に従い、１授業あたり２～３ページ程度を数人で分担し、順番に翻訳を行ってもらい、その都度解説を加える形で進める。なお、発表者がわからなかった箇所については、他の人に答えてもらうので、参加者は予習が必要となる。

【成績評価の方法】

出席状況、翻訳の出来具合、発言などを考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
13	通期	4単位	吉　川　真　裕

【講義概要・学習目標】
International Monetary Fund (IMF) が年２回発行しているWorld Economic Outlook最新版（2006年４月発行予定）の第１章Economic Prospects and Policy Issuesをテキストとして、世界経済の現状を読み解く。英語を翻訳することが目的ではなく、英文テキストの内容を理解し、世界経済の現状と展望を得るすることが目的である。

【授業計画】
毎回、ランダムに学生を指名して内容を発表してもらう（文章を直訳してもらうのではない）ので、予習をしてくることが必要である。

【成績評価の方法】
授業態度（出席しているだけでは評価しない）を重視するが、理解度を調べるために授業内テストも併用する。

【テキスト】
IMF, World Economic Outlook, April 2006.
このうち、Chapter I. Economic Prospects and Policy Issues。
以下のサイトよりアクロバット・ファイルでダウンロード可能。
http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/weorepts.htm
なお、初回の授業でダウンロード方法を実演する。

【参考文献】
World BankやOECDの発行する報告書、および内閣府『世界経済の潮流』(http://www５.cao.go.jp/keizai３/whitepaper.html)。

【備考】
IMFのWorld Economic Outlookは世界経済の現状を紹介する際に最もよく引用されるレポートの１つであり、これを読み解くことであなたもエコノミストの仲間入りができる。頑張ってチャレンジしてみよう。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
21	春学期集中	4単位	西　川　一　廉

か行

【講義概要・学習目標】
最近、人間心理の奥深さをますます強く感じるようになってきた。時には不可解とさえ感じる。自分自身を理解し、他者を理解し、他者との相互作用を理解し、さらに集団内での人間行動を理解するのは至難のわざのように見える。こうした困難な課題に取り組むためには、人間理解のための道具が必要になる。その道具とはこれまで心理学の領域で開発されてきた人間理解のためのモデル、あるいはコンセプトである。それらを駆使することによって、人間と人間行動の理解が進む。本外国書講読ではそうしたモデル、コンセプトを学ぶ。

【授業計画】
短く、簡潔にまとめられた英文のモデル・コンセプトをクラスで順番に読んでいく。読みやすく書かれた教材なので、できるだけ多く読み進め、今後に生かせるようにしたい。そこでパーンの自我状態，マズローの欲求階層，フェスティンガーの認知不協和など取っつきやすく，興味あるものから始める。
なお，講読を始めるに際し，まず当該モデル・コンセプトの概要を説明し,大枠を理解した上で講読に入るという順序で進めたい。またモデル・コンセプトが当てはまる各自の経験談なども交換し合い、立体的に理解することに努めたい。

【成績評価の方法】
出席，事前学習，教室での報告，討議への参加などをもとに総合的に評価する。

【テキスト】
授業開始時にプリントを配布する。

【参考文献】
随時、指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
31	通期	4単位	松　本　眞　一

【講義概要・学習目標】

分野的には児童福祉領域での英文の資料を用いて、児童虐待や非行、ストリートチルドレン等の福祉課題について研究する。地域（国別）としては、小生が2002～2003年（１年間）の海外研修で訪ねた東南アジアやオーストラリア、カナダ等の文献を主として使用する。英文と言っても誰でも読みやすい初歩的な文献を選ぶことにしたい。東南アジアの悲惨な子どもたちの暮らしや、豪州・北米の進んだ虐待対応等を日本の場合と比較検討することで児童福祉の国際的理解を深めることを目標とする。

【授業計画】

事前に前もって配布された児童虐待や非行、ストリートチルドレン等に関する英文資料をあらかじめ１～２paragraphsづつ役割分担を課せられた各受講生が順次翻訳し検討する形式(ゼミ形式)で進める。受講生の数にもよるが、１～３週に１回役割分担が課せられるので、その時は着実に役割（責任）を遂行していただきたい。

【成績評価の方法】

①出席、②読解力、③レポートを総合して評価する。

【テキスト】

「Child Abuse Prevention Handbook」など
使用する資料をあらかじめ月単位毎にコピーして配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
41 42	通期	4単位	隅　田　　孝

【講義概要・学習目標】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということは、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。

本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながら英文講読を進めていくと共に、マーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っていく。

【授業計画】

毎講義において、前半は文法解説・後半は配布プリントの英文精読を行う予定である。受講生の理解度を考慮して、英文精読は時間をかけてゆっくりと進めていく。

１．グローバル化する経済
２．格差の拡大
３．環境の変化
４．企業の新しい視点
５．マーケティング・コンセプト
６．ニーズ、ウォンツ、ディマンズ
７．製品コンセプト
８．価値、費用、満足
９．交換、取引、関係性

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

Kotler, Philip (1994) , Marketing Management, 8 th. ed.,Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

科目名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担当者
51	通期	4単位	的場 かおり

【講義概要・学習目標】

「民主主義」という言葉は今日、わたしたちのまわりに氾濫している。わたしたちの国は、第二次世界大戦での敗北とともに、民主主義国家に生まれ変わった、と歴史教科書は書いている。この民主化政策を担ったアメリカは、このほど「イラクに民主主義を」というスローガンを引っさげてイラクと戦った。ヨーロッパで拡大し続けるEUは、加盟の条件として「民主主義が成熟している」ことを挙げる。果たして、民主主義とは何だろうか？

このプリミティブな問いに関してわたしたちは無関心である。というのも、「民主主義」があまりにも身近にあるがゆえに、わたしたちは「民主主義」を改めて考えることはしないからだ。しかし、「民主主義」は決して自明のものでもなければ、万能薬でもない。「民主主義」の意味、そして機能、さらにはそれがかかえる問題を検討することが、本講義の課題である。

この課題に取り組むにあたって、卓越した民主主義理論家である、ロバート・ダールの著作を取り上げる。この著作『On Democracy』は、民主主義理論を学ぼうとする者にとっては、入門書の一つとなるだろう。ダールは、政治理論という視点から民主主義を読み解いているため、本書は、わたしたちの「民主主義」理論理解の一助となる。しかし、「民主主義」は、政治学の領域にとどまるものではなく、法学や経済学をはじめとする他の領域とも密接に関係している。したがって、民主主義を機能させる、諸制度や法についての検討も不可欠となる。そのさいに「参加」というタームは、わたしたちに多様な検討課題を提供してくれるだろう。「参加」を手がかりに、現在の「民主主義」がかかえる限界や問題点、さらには将来にわたっての課題とは何か、という発展的な検討を行うことを本講義の目的とする。

【授業計画】

基本的にはテキストを輪読する形式をとる。ただし、テキストに関連する文献を紹介・閲読し、民主政あるいは民主主義に関しての議論を行なう。

【成績評価の方法】

出席と授業への参加に基いて評価。

【テキスト】

Robert Alan Dahl, On democracy, Yale University Press, 1998.

【参考文献】

授業中に適宜指示する。講義受講に際して、以下の文献は基本的理解を助けるものとなる。J. J. ルソー著　作田啓一他訳『社会契約論』(白水社、1991年)、J. S. ミル著　水田洋訳『代議制統治論』(岩波書店、1997年)、Carole Pateman, Participation and Democratic Theory, Cambridge University Press, 1970.、C・ペイトマン著　寄本勝美訳『参加と民主主義理論』(早稲田大学出版会、1977年)、シュムペーター著　中山伊知郎他訳『資本主義・社会主義・民主主義 』(東京経済新報社、1951－52年)、宮沢俊義著『民主制の本質的性格』(勁草書房、1948年)、辻村みよ子著『市民主権の可能性』(有信堂、2002年)。

科目名			
外国法－英米法の歴史と現在			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	沼口 智則

【講義概要・学習目標】

外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審判制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原則などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法化社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【授業計画】

1．英米法総論
　・英米法の歴史と特徴
　・コモン・ロー（判例法）原理
2．イギリス法
　・人権の成立とその発展
　・コモン・ロー（判例法）原理
3．アメリカ法
　・司法審査制
　・アメリカ連邦制
　・コモン・ロー（判例法）原理
4．英米法と日本
　・日本の「法化社会」＝「訴訟型契約社会」のいくえ

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科　目　名			
カウンセリング［2］			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	岡　井　哲　明

【講義概要・学習目標】

悩み多き時代である。複雑化する世相を反映してか、心の問題に深くつながっていると感じられる出来事は多く、カウンセリングに対する期待は大きい。

元々、アメリカで教育相談として発展してきたもので、対人援助の技法として、主として言葉を用いて関わるもので、日本に紹介、導入されて以来、国内でも相当な広がりを得て実践されている。カウンセリングという言葉を知らない人は少ない。

本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が実際にどのような理論に基づいて展開されているのか、構造的な約束事等のルールの必要性を含めて、具体的に講義を進めていく。

必要に応じて事例や社会現象等にも触れ、人間の心の凄さや深さについての理解を深め、幅広い観点で、これからの対人援助に向かうであろう受講者に役立つ機会となればと考えている。

また、カウンセリングは理論だけではなく実践に重きを置くものであるため、ロールプレイ等カウンセリングの模擬学習を通じて、体験的な理解を深めたいと考えている。

【授業計画】

1．「こころ」とは
2．カウンセリングとは
3．カウンセリングの歴史
4．カウンセリング理論
5．カウンセリング技法
6．カウンセリングにおける構造化とは
7．カウンセリング過程
8．カウンセリングの効用と限界
9．カウンセラーの養成
10．カウンセリングとソーシャルワーク

※　適宜の模擬体験学習

【成績評価の方法】

出席及び学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。その他レポートを求める場合も有。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で参考図書については紹介する

科　目　名			
科学技術史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	松　永　俊　男

【講義概要・学習目標】

西洋科学の流れを概観し、日本における西洋科学の受容について述べる。

西洋科学の源流は古代ギリシアにある。講義ではまず、ギリシアで科学が生まれた経過を探求し、ギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過を追う。ついで、イスラム文化の導入により、ヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を述べる。

講義の後半では、江戸時代に主としてオランダ語を介して西洋の科学が日本に導入された経過を追い、明治以降の西洋科学の導入について考察する。

【授業計画】

1．古代ギリシアの科学
2．イスラムの科学
3．12世紀ルネサンス
4．17世紀科学革命
5．18世紀の科学
6．19世紀の科学
7．20世紀の科学
8．南蛮学、蘭学、洋学
9．近代日本の科学

【成績評価の方法】

期末試験によって評価する予定。ただし、通常授業時に小テストを実施する場合がある。

科　目　名			
科学思想史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	松　永　俊　男

【講義概要・学習目標】

近代科学は17世紀に成立するが、その思想的背景には、古代ギリシアの合理主義、魔術思想、キリスト教信仰などがあった。この授業では、その中でも科学とキリスト教との関係に焦点を絞って講義する。

一般に、科学と宗教は対立すると思われているが、それは間違いである。西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ようやく19世紀になって、科学は宗教から分離、独立していった。

講義ではガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ、科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

【授業計画】

おおむね以下のテーマを扱う。

1．アリストテレスの合理主義
2．アルキメデスの数理思想
3．魔術思想と科学
4．17世紀科学革命とキリスト教
5．地球の歴史と『創世記』
6．進化論とキリスト教
7．科学と宗教の闘争史観の成立とその崩壊

【成績評価の方法】

主として、期末試験によって評価する予定。ただし、通常授業中に、理解度確認のテストを実施することもある。

【参考文献】

松永俊男『ダーウィンの時代－科学と宗教』名古屋大学出版会

【備考】

＜02～06生＞
共通自由科目として、SS生は対象外
SS生は学科教育科目

科　目　名			
学外研修－インターンシップ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	秋学期	2単位	今　木　秀　和
02	秋学期	2単位	義　永　忠　一

【講義概要・学習目標】

インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験などをするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることを目的としている。

なお当科目については、事前に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【授業計画】

プログラムの概要

（1）事前研修
　A　プログラムのガイダンス
　B　研修企業・団体などの事前研修
　C　ビジネスマナーの指導
　D　研修要領の説明と報告書の作成指導
（2）研修期間
　夏期休暇中（60時間以上、２週間の予定）
（3）事後研修
　研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。

【備考】

＜02～05Ｊ生＞対象外

科　目　名			
学科特殊講義－比較文化			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	Michael Carroll（マイケル キャロル）

【講義概要・学習目標】
The aim of this course is to examine how culture is reflected through the way we use language. In every culture there are some important keywords which everyone knows. Thinking about these keywords is one way of trying to understand what the culture is about. For instance Doi Takeo（土居健郎）has claimed that amae（甘え）is an important concept in understanding Japanese society; many observers of Australia have noted that the phrase, 'she'll be right' expresses something basic about Australian culture; and in the US the phrase, 'the American dream', is often claimed to represent a core value in that society. This course will examine these and other key words in English-speaking and Japanese cultures.

【授業計画】
Mini-lectures, audio-visual materials, discussion. There will also be required reading, in English or in bilingual English/Japanese versions. Classes will consist of mini-lectures and discussions. The course will be entirely in English

【成績評価の方法】
Students should attend every class and be willing to participate in discussions. Each student will need to prepare and lead one discussion during the course. There will be short reports and quizzes occasionally. Students should keep a folder containing all the work done for the course. At the end of the course students will need to hand in this folder for assessment. There will be no examination.

【テキスト】
Handouts will be given during the course

【参考文献】
Matsumoto Michihiro and Boye Lafayette de Mente. 2000.「日本らしあさ」を英語でききますか/Japanese Nuances in Plain English. Tokyo: Kodansha Bilingual Books

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
学科特殊講義－第二言語の教授と学習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	Michael Carroll（マイケル キャロル）

【講義概要・学習目標】
Many people (in fact most throughout the world) learn to speak more than one language. How do they do it? What are the characteristics of second language learning? What do we mean when we say a person is bilingual? What do teachers do to help students learn? How do we teach pronunciation, grammar, vocabulary, communication skills? How do we measure second language ability? These are some of the questions we will talk about in this course.

【授業計画】
This course is suitable for overseas students as well as Japanese students, and is conducted entirely in English. It will consist of lectures given by several members of the Faculty of Letters, and of the Language Centre, and there will be discussions every second or third week.

【成績評価の方法】
Students should attend every class and be willing to participate in discussions. Each student will need to prepare and lead one discussion during the course. There will be short reports and quizzes occasionally. Students should keep a folder containing all the work done for the course. At the end of the course students will need to hand in this folder for assessment. There will be no examination.

【テキスト】
Handouts will be given during the course

【備考】
英語による授業です

科目名			
学際科目－都市とは何か？			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	芝村篤樹

【講義概要・学習目標】
日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

【授業計画】
1．日本近代都市の形成
2．1920・30年代の都市
3．都市における戦前と戦後
4．高度経済成長期の都市
5．現代都市の課題

【成績評価の方法】
講義時の小レポート、期末試験。

【テキスト】
芝村　篤樹　著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）

【参考文献】
必要に応じて指示する。

科目名			
学際科目－地域研究へのいざない			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	深見純生

【講義概要・学習目標】
インドネシアあるいは東南アジアという具体的な地域をとおして、＜地域研究＞の可能性を考える。とくに＜地域＞を成り立たせるものを考える。これによって、学際的・学融合的研究としての地域研究のおもしろさを伝えたい。
東南アジアという地域を成り立たせている特性（地域特性）あるいは論理（地域論理）を明らかにするこためには、とくに生態学（環境と人間のまじわり）と歴史学が必要であり、加えて文化学（人々の生活文化を理解する学）も重要である。
こうした学際的・学融合的な作業をとおして、はてしなく多様で複雑な（したがって一見ひとつのものとして把握しがたい）東南アジアをじつはひとつの世界として理解できるであろう。
地域研究にはフィールドワーク（現地体験、臨地調査）が必要であり、また最も面白い。しかし教室の授業なので、映像（ビデオ）で代替することになる。

【授業計画】
1．オリエンテーション＝学際的と地域研究
2．序論＝東南アジアの地域特性のとらえ方
3．東南アジアの複雑にして多様なこと
4．生態学＝地球で唯一の島の熱帯
5．「森の民」のとらえ方
6．小人口世界としての東南アジア
7．東南アジア2000年文化史＝開かれた地域の歴史
8．結論＝東南アジアの地域特性12ヶ条

【成績評価の方法】
期末テストおよび時々の小テストを総合して評価する。

【テキスト】
特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配布する。

【参考文献】
上智大学アジア文化研究所編『入門　東南アジア研究』めこん 1992
池端雪浦編『東南アジア史２島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典 東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
その他、授業の中で適宜示す。

科　目　名			
家族社会学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	畠　中　宗　一

【講義概要・学習目標】

家族システムに関する学際的な知識を動員して、理念型としてのhealthy familyを実現していくための基礎的条件を考察する。

近代家族は、個人化原理、愛情原理、平等原理によって特徴づけられる。私事化の肥大化と規範意識の希薄化という社会状況が進行するなかで、それぞれの原理間の矛盾が増幅されてきている。また社会システムに内在する規範への過剰な同調行動によって、家族成員は、それぞれの自己実現を阻止される。このような認識のもとに、家族変動および家族臨床の視点から現代家族の諸相を浮き彫りにする。

【授業計画】

1．家族とは何か：山根家族論のキーワード
2．富裕化社会の家族問題
3．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（1）
　：母親の就労が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
4．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（2）
　：家族関係が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
5．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（3）
　：入所年齢が子どものウェルビーイングおよび情緒的自立に及ぼす影響
6．家族形成の諸段階１：青年期の異性交際
7．家族形成の諸段階２：パートナーの選択
8．家族形成の諸段階３：結婚と同棲
9．家族形成の諸段階４：子どもの養育と社会化
10．家族形成の諸段階５：中・高年期の危機と役割の再編
11．家族の危機
12．家族の情緒構造

【成績評価の方法】

試験

【テキスト】

畠中宗一・木村直子著『子どものウェルビーイングと家族』世界思想社

科　目　名			
家族福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	梓　川　　一

【講義概要・学習目標】

1．社会福祉の原点をおさえ、現実的に人間や社会の理解を深める。
2．家族の意味、家族の機能、家族の幸せ、家族の社会的な価値に焦点をあてながら、家族の理解を深める。
3．子ども家庭福祉の分野を中心にして講義を進める。
4．具体的な事例を挙げながら、家族に対する援助方法を講義する。

【授業計画】

1．家族福祉論の導入①（家族とはなにか、家族の幸せ、家と家族など）
2．家族福祉論の導入②(結婚､親子関係､きょうだい､子育てなど)
3．家族福祉の理論、概念の整理
4．大人と子どもの違い
5．環境と人間と家族①（社会関係の本質の理解）
6．環境と人間と家族②（学校、職場、福祉施設、地域社会）
7．福祉制度･サービスと家族の生活
8．家族内の問題（社会問題と社会福祉問題、家族のニーズと生活課題）
9．日本の家族事情（家事、子育て、虐待、非行、介護など、各テーマごとに講義する）
10．日本経済と家族の生活課題（企業経営と労働者、単身赴任や早期退職など）
11．家族援助の本質（本人の自己決定と家族の自己決定、家族内課題の要因と援助方法）
12．家族の思い出の意味（家族の物語、幸せな家族とは）
13．ターミナルケアーと家族（家族の看取り、家族の死）

【成績評価の方法】

1．出席と主体的な姿勢
2．講義中のレポートと小テスト
3．期末試験
4．以上を総合して評価する

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。講義にて、資料を配布する。

科目名			
学科特殊講義―日本の民族Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	橋内　武

【講義概要・学習目標】
This cours is taught in English, but keywords are given in Japanese.
The aim of this course is to introduce basic concepts in Japanese folklore and to elucidate their manifestations in modern Japanese society. Japanese Folklore I covers ① Introduction to Folklore, ②Rites of Passage, ③Calendar Customs, and ④Children's Lore. Lectures will be partially supported by such audio-visual aids as video, CD, photo, and realia.

【授業計画】
1. Introduction to Japanese Folklore Ⅰ
2. Folklore and Folkloristics
3. Rits of Passage ①：Birth
4. Rits of passage ②: Growing-up
5. Rits of passage ③: Wedding
6. Rits of passage ④: Funeral
7. Rits of passage ⑤: Memorial Service
8. Calendar Customs ①: Lunar Calendar versus Solar Calendar
9. Calendar Customs ②: New Year Festival
10. Calendar Customs ③: Bon Festival
11. Calendar Customs ④: New Customs Adapted from Western Cultures
12. Calendat Customs ⑤: Traditional Festivals of Kyoto
13. Children's Lore ①: Games
14. Children's Lore ②: Songs

【成績評価の方法】
Attendance and Participation : 30%
A paper with the length of 1,200 words : 30%
Final Examination : 40%

【テキスト】
No textbooks are required. Handouts will be provided at class.

【参考文献】
Books Recommended are announced at the first class of this course.

【備考】
英語による授業です

科目名			
学科特殊講義―日本の民族Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	橋内　武

【講義概要・学習目標】
This course is taught in English, but key words are given in Japanese. The aim of this course is to introduce basic concepts in Japanese folklore and to elucidate their manifestations in modan Japanese society. Japanese Folklore Ⅱ covers ① Oral Tradition with special reference to Folktales, ②Folk Music, Dance and Drama, ③ Folk Art and Craft, and Vernacular Architecture. Lectures will be partially supported by such audio-visual aids as video, CD, and photo.

【授業計画】
1. Introduction to Japanese Folklore Ⅱ
2. Folklore and Folklorisitics
3. Oral Tradition: Name, Proverb, Word Play, Chanting
4. Oral Tradition: Myth, Legend, Folktale, Gossip
5. Folktales: Genesis and History
6. Folktales: Structure
7. Folktales: Function
8. Folktales: Their modern art forms
9. Folk Music: Instrumental Music
10. Folk Music: Songs
11. Folk Dance
12. Folk Drama
13. Folk Art and Craft
14. Vernacular Architecture

【成績評価の方法】
Attendance and Participation : 30%
A paper with the length of 1,200 words : 30%
Final examination : 40%

【テキスト】
No textbooks are required. Handouts will be provided at class.

【参考文献】
Books Recommended are announced at the first class of this course.

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
学校図書館論Ⅰ （学校経営と学校図書館）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	吉　田　憲　一

【講義概要・学習目標】
1997年６月，長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であるが、これをこれからの学校図書館の充実に向けてどのように生かしていくかが今後の課題である。
　この授業では、「学校の中の図書館」としての学校図書館がもつ特有の機能（指導的機能）と、図書館自体がもつ共通的な機能（奉仕機能）を留意しつつ、学校図書館の意義と役割を全般的に学んでもらう。
　そこでは、学校図書館の主要な構成要素である人、施設、資料について、その経営（運営・管理）的な要素を中心に学んでもらうこととなる。
　前半部分では、主として学校図書館の意義や役割りについてを、後半部分では、学校図書館を掌理する司書教諭の役割および施設についてを、講義内容の柱として進めていく。
　また、ビデオを利用して，学校図書館のいきいきとした活動の実際も学んでもらうこととする。

【授業計画】
１．学校図書館の理念と教育的意義
２．学校図書館関連法規・基準
３．学校図書館法解説
４．学校図書館の歴史
５．学校図書館の経営：人、施設、資料、予算など
６．学校図書館の運営・管理
７．司書教諭の役割
８．学校図書館の施設
９．学校図書館の活動とネットワーク

【成績評価の方法】
中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果および出席状況を勘案して評価する。

【テキスト】
福永義臣編著　『学校経営と学校図書館』 樹村房　（学校図書館実践テキストシリーズ３）

【参考文献】
最初の講義の際に説明する。

科　目　名			
学校図書館論Ⅱ （学校図書館メディアの構成）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	志保田　務

【講義概要・学習目標】
本科目は、学校図書館法のもとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学習目標を有する。
＜内容＞
１）学校図書館メディアの種類と特性
２）学校図書館メディアの選択と構成
３）学校図書館メディアの組織化
　資料排列法：
　　書架分類法：日本十進分類法（NDC）
　　図書記号法
　　別置法：
　　主題目録法
　　件名法：基本件名目録法（BSH）
　　書誌分類法
　　名称による検索：日本目録規則（NCR）1987年版改訂版
　　著者検索
　　タイトル検索
　　キーワード検索
　　目録の機械化
　　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置
＜目標＞
１）学校図書館司書教諭の資格の取得
２）それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得
３）学校図書館の実際業務に役立つ知識の獲得

【授業計画】
1　メディアの構成：資料論
2　分類
3　書架分類
4　日本十進分類法　1
5　同上　2
6　分類法演習　1
7　同上　2
8　目録法
9　同上（タイトル目録）
10　同上（著者目録）
11　同上（件名目録）
12　機械化目録
13　多様な学習環境と学校図書館メディア
14　学校図書館メディアセンター論
15　テスト

【成績評価の方法】
テスト　70％
課題　20％
出席　10％

【テキスト】
志保田務『分類・目録法入門；メディアの構成　新改訂４版』第一法規2005　￥2000

【参考文献】
図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】
実習スタイルの授業とするので、マニュアルとしてテキストは必ず入手、持参する必要がある。

科　目　名			
学校図書館論Ⅲ （学習指導と学校図書館）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	林　陸　雄

【講義概要・学習目標】

学校図書館司書教諭資格課程の必須科目であり、且つ教職課程の科目のうちの「教科又は教職に関する科目」として位置づけられた選択科目でもある。学校図書館司書教諭として児童・生徒を教育するために必要な基礎・基本を教授する。この科目の主題は学習指導と学校図書館である。学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。それゆえ、授業では計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。

【授業計画】

1．授業開き
2．学校教育と学校図書館
3．カリキュラム編成と学校図書館
4．学習情報センターとしての学校図書館
5．教材センターとしての学校図書館
6．中学校における学校図書館の実際１
7．生涯学習の理念と学校図書館
8．メディア活用能力の育成１
9．メディア活用能力の育成２
10．メディア活用能力の育成３
11．発達段階に応じた学習指導のあり方
12．中学校における学校図書館の実際２
13．中学校における学校図書館の実際３
14．学校図書館における情報サービス
15．まとめ

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

志村尚夫　監修、朝比奈大作　編著『学習指導と学校図書館』、樹村房

【参考文献】

適宜、紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科　目　名			
学校図書館論Ⅳ （読書と豊かな人間性）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	林　陸　雄

【講義概要・学習目標】

学校図書館司書教諭資格課程の必須科目であり、且つ教職課程の科目のうちの「教科又は教職に関する科目」として位置づけられた選択科目でもある。学校図書館司書教諭として児童・生徒を教育するために必要な基礎・基本を教授する。この科目の主題は読書と豊かな人間性である。子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性を豊かに醸成する学校図書館活動の在り方について、その基本と実際をとりあげる。

【授業計画】

1．授業開き
2．読書と人間
3．発達段階と読書１
4．発達段階と読書２
5．発達段階と読書３
6．読書資料の種類と活用
7．読書への手がかりと読書体験のひろがり
8．中学校における読書指導の実際１
9．中学校における読書指導の実際２
10．中学校における読書指導の実際３
11．読み語りの実際１
12．読み語りの実際２
13．読み語りの実際３
14．学校図書館の課題
15．まとめ

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

志村尚夫　監修、赤星隆子　編著『読書と豊かな人間性』、樹村房

【参考文献】

適宜、紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科　目　名			
株式会社会計			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	河　野　　勉

【講義概要・学習目標】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。
財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】
1．簿記一巡の取引と財務諸表
2．現金預金取引
3．有価証券取引
4．債権債務取引
5．手形取引
6．引当金取引
7．特殊商品売買取引
8．固定資産取引
9．株式会社会計
10．決算整理・財務諸表の作成
11．本支店会計・合併財務諸表の作成
12．帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

【成績評価の方法】
定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】
・武田隆二著「簿記一般教程」（中央経済社）
・加古　宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記ワークブック２級商業簿記」（中央経済社）

【参考文献】
加古宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記講義２級商業簿記」（中央経済社）

科　目　名			
環境経済論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	浦　出　俊　和

【講義概要・学習目標】
環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。
本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。
環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定であるので、これらの知識がない者でも歓迎する。

【授業計画】
1．ゴミ問題と経済学
2．環境問題と経済学
3．市場均衡と社会的総余剰
4．市場の失敗と外部性
5．公共財と環境財
6．環境政策における経済的手段
7．PPPの原則とコースの定理
8．非枯渇性資源問題とゲーム論
9．環境価値の経済評価

【成績評価の方法】
原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【テキスト】
特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html

【参考文献】
1）植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
2）R.K.ターナー・D.ピアス・I.ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）

科　目　名			
環境問題概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	巖　　圭　介

【講義概要・学習目標】

地球温暖化、化学物質、リサイクル・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。

この講義では、これからの時代を生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらうとともに、それぞれの問題に対し今何をすべきか、何がなされているか、何ができるかを、ともに考えていきたい。

【授業計画】

時事問題も取り入れながら、おおむね以下のテーマを扱う（順序は変更の可能性あり）。

・ゴミ問題
・人工化学物質汚染
・酸性雨、オゾン層破壊
・地球温暖化
・土壌劣化、水危機、食糧問題
・エネルギー問題

【成績評価の方法】

テーマの区切りごとに課すイン･クラス･レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、提出自由のボーナスレポート、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）。

【テキスト】

なし

【参考文献】

遠山益『人間環境学』裳華房　2001
石弘之『地球環境報告Ⅱ』岩波新書　1998
安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー　1998

【備考】

＜02～06生＞
共通自由科目として、SS生は対象外
SS生は学科教育科目

科　目　名			
監査論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	朴（パク）　大（テ）　栄（ヨン）

【講義概要・学習目標】

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしている。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、2002年１月には監査基準の大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

【授業計画】

講義の順序を示す。

第１章 監査とは（CPA業務）　第２章 監査論の考え方
第３章 監査の必要性　第４章 監査の限界と補強方法
第５章 監査の歴史　第６章 監査報告書の構造

【成績評価の方法】

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

【テキスト】

加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著
『監査論講義』 中央経済社
その他、講義中に適宜配付する。

【参考文献】

鳥羽至英著　『監査基準の基礎』 白桃書房
山浦久司著　『会計監査論』 中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

か行

科　目　名			
環太平洋圏経営研究			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	隔週	4単位	岸　本　裕　一

【講義概要・学習目標】

日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起しており、このような中にあって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件であり、また、本学の建学の精神である。「世界の市民」という視点からも避けては通ることのできない学びとなっている。受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。

【授業計画】

＜春学期＞

第１回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第２回以降は、韓国、中国、アメリカ、中南米、ロシア極東地域の経済動向と経営の転回について、専門家によるリレー講義となる。

＜秋学期＞

最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組、コンテンツ産業の展開などにつき専門家のリレー講義となる。

そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。

（注記）前・後期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションに時点で公表される。

【成績評価の方法】

１．講義への出席と関与の程度
２．レポートの評価

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

科　目　名			
管理会計論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	谷　　武　幸

【講義概要・学習目標】

管理会計は、経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画（plan）し、このプランの実行（do）プロセスにおいてプランの実現をチェック（check）し、必要なアクションをとるという一連のサイクルを回します。本講義では、管理会計の基本の理解を目標とします。

【授業計画】

第Ⅰ部　管理会計の基礎
　　第１章　管理会計の意義
　　第２章　管理会計の基礎概念
　　第３章　意思決定会計の方法
　　第４章　業績管理会計の方法
第Ⅱ部　伝統的管理会計システム
　　第５章　原価管理
　　第６章　予算管理
　　第７章　中長期計画
　　第８章　設備投資計画
　　第９章　事業部制会計
第Ⅲ部　戦略的管理会計システム
　　第10章　戦略的管理会計の意義
　　第11章　原価企画
　　第12章　ABC
　　第13章　バランスト・スコアカード
　　第14章　インタラクティブコントロール

【成績評価の方法】

出席状況と試験を総合して評価します。

【テキスト】

溝口一雄『管理会計の基礎』中央経済社

【参考文献】

必要の都度指示します。

科目名			
企業論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	稲別正晴

【講義概要・学習目標】

企業社会といわれるように、企業は生産や流通などの経済活動において大きな役割を担っている。わが国における株式会社・有限会社の数は二百数十万社にのぼるが、その中で全体の約1.5パーセントに過ぎない、株式が公開されている株式会社の役割はきわめて重要である。

本講義では、株式公開会社を主たる対象として、その構造と行動を明らかにする。すなわち、株式会社の特徴、経営者の役割、組織、経営戦略などを取り上げて論じる。また、典型的な公開会社の重要な特徴の一つは経営のグローバル化であり、これについても本講義で取り上げる。

さらに、企業規模の増大とともに、企業活動が社会に及ぼす影響も大きくなり、企業は株主のみならず、多様なステークホルダーに対する責任を問われるようになった。すなわち、今日の企業は持続可能性という観点から、単に経済的側面においてだけでなく、環境、社会の側面においても責任ある経営を問われているのであり、この企業の社会的責任経営も重要な問題である。

日本企業はバブル崩壊以前の絶頂期からバブル崩壊後の苦境期へと急激な変動を経験して、新しい成長を求めて構造改革に取り組んできた。この中で、日本の企業システムの特徴は何か、なにを残し、なにを変えるべきか、ということが問われてきた。本講義では、できる限り日本企業が直面している諸課題も取り上げていきたい。

受講生諸君の積極的な参加を期待している。

【授業計画】

1. はじめに—企業と市場
2. 企業形態—株式会社を中心として
3. 企業目的と収益性
4. 企業の評価と投資基準
5. 所有と経営の分離
6. コーポレート・ガバナンス
7. プリンシパル＝エージェント関係
8. 取引費用の理論と組織形態
9. 経営戦略
10. 日本の企業システム
11. 日本企業の海外進出と経営のグローバル化
12. 企業の社会的責任経営

【成績評価の方法】

試験の成績に自主リポートを加味して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

プリントに記載、また講義時に指示する。

科目名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	野原康弘
02	秋学期	2単位	坂手恭介
03	秋学期	2単位	坂手恭介
04	秋学期	2単位	坂手恭介
05	秋学期	2単位	坂手恭介
06	秋学期	2単位	鈴木幾多郎
07	秋学期	2単位	谷武幸
08	秋学期	2単位	谷武幸
09	秋学期	2単位	中村恒彦
10	秋学期	2単位	中村恒彦
11	秋学期	2単位	野田俊範
12	秋学期	2単位	野田俊範
13	秋学期	2単位	野原康弘
14	秋学期	2単位	野原康弘
15	秋学期	2単位	牧野丹奈子
16	秋学期	2単位	松尾順介
17	秋学期	2単位	松尾順介
18	秋学期	2単位	松尾順介
19	秋学期	2単位	中村恒彦

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに，“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に，“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは，社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

＜学習目標＞

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

＊全回出席を原則とする

【授業計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

第1回　授業の概略説明と自己紹介
第2回　読んで理解し、要約を書く（1）
第3回　読んで理解し、要約を書く（2）
第4回　読んで理解し、要約を書く（3）
第5回　聞いてメモを取り、要約を書く（1）
第6回　聞いてメモを取り、要約を書く（2）
第7回　聞いてメモを取り、要約を書く（3）
第8回　プレゼンテーションについて（ビデオ等）
第9回　わかりやすく表現する（1）
第10回　わかりやすく表現する（2）
第11回　わかりやすく表現する（3）
第12回　3年生からの「演習」への取り組み方

＊授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポートのなどの提出とその内容、授業中の態度など

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

科　目　名			
基礎演習＜L＞			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	青　野　正　明
02	通期	4単位	有　川　康　二
03	通期	4単位	小　野　良　子
04	通期	4単位	Michael Carroll
05	通期	4単位	小　池　　誠
06	通期	4単位	佐々木　英　哲
07	通期	4単位	清　水　真　一
08	通期	4単位	寺　木　伸　明
09	通期	4単位	Philip Billingsley
10	通期	4単位	藤　森　かよ子
11	通期	4単位	アニー　ヤマサキ
12	通期	4単位	米　山　喜　晟

【講義概要・学習目標】

文学部では国際社会で広く活躍しうる人材を育成するために、「実践的英語力」「国際的視野」「現代社会への対応」という３つの方針を掲げている。この演習の目的は、こうした教育理念を生かすための素養と技能を獲得することである。

「何をどう学ぶか」の指導・助言を行う。とくに文学部でどのような勉学が可能であるか、あわせて学生生活一般にかかわるガイダンスを行う。受講生が２年次以降どのコースを専攻し、またどちらの学科を選択するかを判断するのに役立つことであろう。

具体的な授業内容としては、とくに少人数ゼミナールという利点を生かして、研究発表のしかたやレポートの書き方に習熟することが重視される。これはすべての科目に有益であるが、とくに３年次からの専門演習をスムーズに始めることができるであろう。

【授業計画】

①図書館の利用方法
②情報センターの利用方法
③講義の受け方、ノートの取り方
④読書指導（内容の把握と評価）
⑤文章指導
⑥レポートの書き方（問題の発見・設定、資料・情報の収集、情報の解読と総合）
⑦プレゼンテーションの方法、自己紹介から研究発表まで

【成績評価の方法】

出席（毎回出席が原則）、積極的な授業参加、課題の提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献】

その都度指示する。

【備考】

英語による授業です

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	軽　部　恵　子

【講義概要・学習目標】

人間の知的活動は「聞く・話す・読む・書く」の４つに集約できます。この演習では、日本語の能力を磨き、論理的思考を習得するための練習をします。また、相手の話を細部まで正確に理解し、資料を多角的に分析し、説得力ある意見をわかりやすく発表し、理路整然とした文章を書くという、大学でのあらゆる勉強に必要不可欠な技術を学びます。

受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心・探求心を持つよう求められます。主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）のうち１紙を毎日読み、テレビのニュース番組を見て下さい。演習の素材には、身近でタイムリーなトピックを取り上げます。

【授業計画】

１．聞く：ノートの取り方
２．話す：発表の基礎、１分間スピーチ、ディベート
３．調べる：図書館の使い方、資料収集の方法、ホームページの使い方、新聞の読み方（紙面構成、記事の内容、社説、世論調査、複数紙の比較）
４．読む：要旨の把握、資料の整理と検討、論理的思考方法、名文の鑑賞
５．書く：「漢字力」の向上、敬語の使い分け、慣用句や語彙数の増加、表現力の向上、テーマ選定、適切な言葉遣い、明快な論旨と構成、正確で完全な引用、文章の添削
６．その他：グループ・プロジェクト、映画にみる裁判

【成績評価の方法】

出席状況、授業中の発言・質問、課題（内容・期限の遵守）、発表（個人・グループ）、学期末試験を合わせて評価します。履修の大前提として、出席状況はとくに重視されます。

【テキスト】

①北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社 2003年
②谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋社 2000年
③木幡健一『「プレゼンテーション」に強くなる本』PHP研究所 2002年

【参考文献】

・池上彰『池上彰の情報力』ダイヤモンド社　2004年
・石井勝利『短時間で裏読みまで日経新聞の読み方』明日香出版社　2003年
・石田晴久『インターネット安全活用術』 岩波書店　2004年
・井上真琴『図書館に訊け！』筑摩書房　2004年
・小林公夫『論理思考の鍛え方』講談社　2004年
・澤田昭夫『論文の書き方』講談社　1977年
・渋井真帆『渋井真帆の日経新聞読みこなし隊』日経新聞社 2005年
・町田顕『初心者のための「日経新聞」の読み方』東洋経済新報社　2004年
・成川豊彦『成川式文章の書き方』新訂版　PHP研究所　2003年
・樋口裕一『ホンモノの思考力』集英社　2003年
・樋口裕一『ホンモノの文章力』集英社　2000年
・藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社　2002年
・古橋信孝、吉田文憲監修『思わず口ずさむなつかしい日本語の歌・と詩』 成美堂出版　2004年
・鷲田小彌太『思考の技術・発想のヒント』PHP研究所　2002年
・鷲田小彌太『入門論文の書き方』PHP研究所　1999年

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	4単位	佐　藤　啓　子

【講義概要・学習目標】
基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とする。それにより、学習のための基本技術の習得およびモティベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う

【授業計画】
前期…ノートの取り方、図書館の使い方、教科書の読み方、報告書・答案の書き方、情報機器の利用法など
後期…ディベート、ゼミレポートの書き方など

【成績評価の方法】
出席とその態度、提出物で決定する。

【テキスト】
弥永真生・有斐閣『法律学習マニュアル』
六法

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	通期	4単位	瀬　谷　ゆり子

【講義概要・学習目標】
大学では、自らの主体的な学修が望まれる。教えられることを正確に理解するだけではなく、自らの考えを裏付ける調査を行い整理し、それを口頭および文書の形で発表して他人に伝え、批評を受けることが求められる。
演習では、社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーの自由な意見交換を行える場としたい。

【授業計画】
＜春学期＞
図書館・情報センター等の施設を利用した文献・資料収集方法のガイダンスを受けた後、まず、グループごとに特定のテーマについて、以下のような手順で報告するという経験をしてもらう。
1．問題の設定
2．資料の収集
3．レジュメ（報告要旨）の作成・報告
4．質問への対応
5．レポート作成
その後、各人の関心テーマについて一人でこれを行なう。
＜秋学期＞
希望により、特定のテキストを使用し、問題設定・報告・議論を行い、それぞれレポートを作成する。その他、ディベート等も行いたい。

【成績評価の方法】
出席・議論への参加状況およびレポートを総合評価する。

【テキスト】
春学期は特に使用しない。
秋学期は、受講者の希望を聞いて決定する。
なお、六法（出版社は問わない）は必ず持参すること。
使い方のガイダンスを行います。

【参考文献】
適宜紹介する。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
04	通期	4単位	田　中　志津子

【講義概要・学習目標】
教師から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。
文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得できるようにする。

【授業計画】
・文献収集方法、出典の表記方法
・文献講読・要旨抽出
・ノートの取り方、レポート・論文の書き方
・報告手順（準備したものを読めばよいわけではない）
・議論の進め方（ディベートの練習）　など

【成績評価の方法】
出席状況・報告・発言・取組姿勢・提出物等を総合的に評価する。
正当な理由のない遅刻・欠席・提出物の未提出などは一切認めない。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
・河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第３版（慶応大学出版会、ISBN：4766409698；第３版　版（2002/12））
・小野田博一『絶対困らない議論の方法』（三笠書房、ISBN：4837970370；(1999/05)）

【備考】
・携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
05	通期	4単位	寺　田　友　子

【講義概要・学習目標】
法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。
春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方・読み方、文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく運転手の安全確保手段等についても理解を深めたい。
尚、質問等を気軽に行い得るためには、演習生相互の親睦が欠かせないものと考えるから、早い時期にコンパ等も行いたい。
夏休みの課題として、各自、判例を１つ選択し、レジュメを作る。秋学期にはいると各自、報告する。他の演習生はその報告に質問等を行い、その報告について、レポートを毎時間提出する。そのことにより、人の報告を聞いて、ノートを取る能力等を養いたい。
このレポートについては、毎回添削して返却したい。
最終的には、自己の報告した判例について、最終レポートを提出する。

【授業計画】
春学期
1　ガイダンス
2　自己紹介
3　コンパ
4　最高裁判所の交通事故判決の輪読
5　後期に各自が報告する判決の選択
秋学期
6　各自選択した判決の報告
7　最終レポートの提出

【成績評価の方法】
正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。
授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート、最終レポート等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】
別冊ジュリスト『交通事故判例百選（最新版）』（有斐閣）
ポケット六法［平成18年版］（有斐閣）

【参考文献】
適宜指示する。

科目名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
06	通期	4単位	永水裕子

【講義概要・学習目標】
法学部での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートのとり方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベート、論文・レポートの書き方、報告の仕方、文献購読の仕方等についての基礎的な指導を行う。
　さらに、少人数制を生かし、学生相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援するとともに、学生生活や将来の進路に関する相談・助言を行う予定である。

【授業計画】
・文献・資料等の検索、収集方法
・図書館利用の方法
・ノートのとり方
・レポートの書き方
・報告の仕方
・判例の読み方

【成績評価の方法】
出席状況、報告、発言・取組姿勢、提出物等を総合的に評価する。

【テキスト】
弥永真生『法律学習マニュアル[第２版]』(有斐閣)
六法

【参考文献】
演習の際に指示する。

科目名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
07	通期	4単位	前田徹生

【講義概要・学習目標】
基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献講読等を中心とし、さらに、夏休み等を利用して、裁判所の見学、情報公開法〔条例〕利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモティベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【授業計画】
1）ゼミ・ガイダンス
2）ディベート
3）ディベート
4）ディベート
5）ディベート
6）ディベート
7）図書館ガイダンス①
8）図書館ガイダンス②
9）小論文の書き方（1）
10）小論文の書き方（2）
11）ノートのとり方
12）報告／討論
13）報告／討論
14）報告／討論
15）報告／討論
16）報告／討論
17）報告／討論
18）報告／討論
19）報告／討論
20）報告／ 討論
※授業展開に応じて、プログラムを変更することもある。

【成績評価の方法】
　単位認定の最低条件：三分の二以上の出席。報告を行うこと，レポートの提出。
　成績は、これらの成果を総合して判定する。

【テキスト】
必要に応じて指定する。

【参考文献】
その都度、紹介する。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
08	通期	4単位	南　由　介

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミックガイダンスとして開講されます。大学での学問は、高校までとは違い、教えられる（耳から聞く）だけではなく、自ら積極的に学ぶ（自分で調べてくる）必要があり、いわば自己責任の世界です（怠けても誰も助けてくれません）。それ故、新入生は戸惑うことも多々あるかと思います。

本演習では、４年間の学生生活を有意義に過ごすために、勉学に必要な基礎的能力を養うことを目的とするものです。そのために、本演習は、例えば、情報収集の仕方、自分で調べてきて報告をする能力、ディベートによる表現能力の向上等、大学での学習で必要となる能力を身につけることによって大学生活が円滑に進むよう、側面的に支援します。

【授業計画】

ディベートを中心に行います。テーマは社会情勢一般を扱い、世の中が今、どのように動いているのかを知るとともに、他人の面前で発言することに慣れてもらいます。

また、図書館の使い方を含め、情報収集技術を身につけてもらいます（これは慣れていないと意外に難しい）。

レポートの書き方や、法律文献の読み方、および判例の読み方についても学んでもらう予定です。

【成績評価の方法】

出席、レポート、演習における積極性等、総合的に評価します。担当者は、受講者が欠席しても、レポートを提出しなかったとしても、強く注意することはありません。しかし、その場合は評価が下がる（単位を落とす）ことになりますので注意してください。

【テキスト】

適時、指定します。

【参考文献】

適時、指定します。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
09	通期	4単位	吉　見　研　次

【講義概要・学習目標】

法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進める際の文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術（特に法律学学習のノウハウ）を体得してもらう予定である。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、事情が許せば学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、法律関係の各種資格試験の紹介や全般的な履修指導も行うつもりである。

【授業計画】

春学期は毎回、主にテキストを輪読または学生諸君による紹介報告の形式で読み進めていくが、関連資料を取り上げることもある。図書館等の見学に時間を割くこともある。作文・小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業を課すこともあろう。

夏休み中および秋以降の課題として、各自が関心のある問題につき文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらう予定である（レポートのテーマは各自の選択に委ねるつもりだが、大枠は指定するかもしれない）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。

【成績評価の方法】

出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

弥永真生『法律学習マニュアル（第２版）』（有斐閣）

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科目名			
教育学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期	2単位	竹中暉雄
02	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。

教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。

その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。

教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。

毎回、下記の参考文献の内容に対応したプリントを配布するが、途中入室者には講義終了後となるので注意してほしい。

質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。遠慮なくどうぞ。

【授業計画】

1．教育の一般的定義と教育の困難性
2．人間の教育必要性
3．人間の教育可能性
4．人間の想像性・創造性
5．遺伝×環境×？
6．生涯学習の可能性と必要性
7．教育上の人間関係
8．近代教育の原理「合自然」
9．ルソーによる「子どもの発見」
10.「合自然」の流れと反「合自然」
11. 児童中心主義とデューイ教育学
12. 連続の教育と非連続の教育
13.「権力作用としての教育」

【成績評価の方法】

論述試験による。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』(改訂版) ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、参考文献の内容にほぼ対応したプリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後まで配布しませんので注意してください。

質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。遠慮なくどうぞ。

科目名			
教育実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期	3単位	冷水啓子
02	春学期	3単位	竹中暉雄
03	春学期	3単位	竹中暉雄
04	春学期	3単位	島田勝正

【講義概要・学習目標】

教育実習Ⅰは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って検証する実習校での実地実習（２週間）と、その前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている３単位となる。中学校教員免許、高校教員免許のための必修科目である（中学校の教員免許取得のためには別に教育実習Ⅱも登録しなければならない）。

まず学内での事前実習において模擬授業と相互批評を繰り返し、十分な準備をしたうえで、学校の現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動することが必要である。

再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験を発表し合ったり、本学卒業の教員の講話を聞いたりするなかで実地実習の総括反省を行い、最後に本学教職課程教育全体についての自己評価も行う。

なおこの教育実習Ⅰでは、事故または疾病など正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められない。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．模擬授業
3．模擬授業
4．模擬授業
5．模擬授業
6．模擬授業
7．模擬授業
8．実地実習
9．実地実習
10. 実習体験報告
11. 実習体験報告
13. 卒業生教員の講話
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

実習校による評価票、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2002年度改訂版〕－』
池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』(学文社)
白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』(学文社)

【備考】

インテグレーション科目

科　目　名			
教育実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	竹　中　暉　雄

【講義概要・学習目標】

教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰとともに、中学校教諭免許取得のための必修科目である。両方を合わせて、「教育職員免許法施行規則」で定められている５単位となる。教育実習Ⅱでは、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に検証することを主たる目的としている。

実習Ⅱの実施形態には、春学期の教育実習Ⅰ（学内実習を除いて２週間）と連続してさらに２単位相当時間（一般に＋１週間）実施するものと、教育実習Ⅰとは別に、本学の地域連携実習協力校において年間を通して２単位相当時間、実施するものとがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（２週間あるいは３週間）によって決まるので（２週間の場合は後者となる）、３年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。

いずれの形態をとる場合でも、中学校の免許取得希望者は、４年次春学期に行なう履修登録では必ず教育実習Ⅱの登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長や各教員の指導によく従うとともに、逸脱した「生徒指導」やプライヴァシーの暴露などをしないよう十分注意を払わなければならない。

正当な理由の無い欠席・遅刻は認められないことはもちろん、無断欠席・遅刻は絶対に許されない。

【授業計画】

最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習。

【成績評価の方法】

実習校による評価表、実習簿、学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会編『教職をめざして―教職課程履修ガイド[2002年度改訂版]』

池田・酒井・野里・宇井編著『教育実習概説』学文社

白井・寺崎・黒澤・別府編著『教育実習57の質問』学文社

科　目　名			
教育社会学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	山　内　乾　史

【講義概要・学習目標】

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から据えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

また、発展途上国の教育問題もアジア、特に中国とインドを中心にわたってお話しします。

講義は多人数になることが予想されるので、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。

細かい点については、詳しいシラバスを第１回授業時に配布して説明します。

【授業計画】

１．イントロダクション
２．教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
３．日本における学歴社会論（１）－（３）
４．アメリカ合衆国の教育史（１）－（３）
５．イギリスの教育史（１）－（３）
６．日本における学力低下問題と改革（１）－（３）
７．アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（１）－（２）
８．イギリスにおける学力低下問題と改革（１）－（２）
９．日本における大学改革と教育機会の変化（１）－（２）
10．アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（１）－（２）
11．イギリスにおける大学改革（１）－（２）
12．発展途上諸国の教育（１）－（２）
13．よい教師とは？（１）－（３）
14．教育社会学とは？（まとめ）

【成績評価の方法】

成績評価は試験（70％）と授業終了時に課すレポート（30％）によります。一回欠席毎に10点減点。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、４回以上欠席の学生には受講資格を認めません。

【テキスト】

山内乾史・杉本均編『現代アジアの教育計画（上巻）』（学文社、2006年）

【参考文献】

山内乾史・杉本均編『現代アジアの教育計画（下巻）』（学文社、2006年）

山内乾史監訳『開発途上アジアの学校と教育－管理運営と教授＝学習過程－』（学文社、2006年）

【備考】

Ｅ・SW・Ｂ・Ｌ・LE・LI・Ｊ生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科　目　名			
教育心理学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	冷　水　啓　子

【講義概要・学習目標】

近年，学校では，不登校やいじめに加え，授業中私語に興じて教師の話を聞かない，無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない，我慢ができず些細なことですぐに切れる，といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では，このように日常的に起こりうる困難な事態に対し，教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには，子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法に精通しているうえに，さまざまな発達障害，心理障害，問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要があろう。すなわち，平常の授業を円滑に運営するだけでなく，問題の発生を未然に防いだり，起こった問題の原因を究明して解決へ導いたりするための知識・技能，柔軟な判断能力や根気強い態度が必要とされるのである。

そこで，この「教育心理学」では，生涯発達の観点から「乳幼児，児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する理論と教育臨床活動について学び，実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。

なお，これは，教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして，本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は，コンピュータ,OHC,VTR，印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【授業計画】

1．はじめに
2．生涯発達
　1）生涯発達とは
　2）発達の原理
　3）発達段階理論：フロイト，エリクソン，ピアジェなど
3．乳幼児期
　1）乳幼児期における心身の発達と学習
　2）発達障害とその臨床援助
4．児童期・思春期
　1）児童期・思春期の心身の発達と学習
　2）児童期・思春期の心理障害と臨床援助
5．青年期
　1）青年期の心理発達と学習
　2）青年期の心理障害と臨床援助
6．全体のまとめ
7．学期末試験

〔但し，授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中，必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

教科書は使用しないが，参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を，個人で購入するか本学図書館から借りるかして，予習・復習で活用すること。

【参考文献】

APA（編）高橋他（訳）『DSM-Ⅳ―精神疾患の分類と診断の手引き―』（医学書院）
藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会）

科　目　名			
教育相談			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	和　知　富士子

【講義概要・学習目標】

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。
また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。
子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。
本講義では、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。

【授業計画】

1．導入
　生徒指導と教育相談
2．生徒指導の位置づけ
　大阪府下Ｓ市教育委員会の実践
3．教育相談の実際（問題別）
　（1）不登校
　（2）いじめ
　（3）児童虐待
　（4）非行
4．障害児（軽度発達障害等）
5．精神・行動の障害
6．心理療法の基礎
7．カウンセリングの実際１
8．カウンセリングの実際２
9．カウンセリングの実際３
10．外部の相談機関、医療機関
11．アセスメント方法
12．まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし欠席、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象にしない。

【テキスト】

授業の進行にしたがってそのつどプリントを渡す。

【参考文献】

高野清純　監修　佐々木雄二　編
「図で読む心理学　生徒指導・教育相談」福村出版

科　目　名			
教育法規			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	竹　中　暉　雄

【講義概要・学習目標】
「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の社会的・制度的な事項として教育法規をとりあげる。
教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠なものとなってきた。
法令というのは体系的なものなので、その学習も体系的・逐条的にすべきではあるが、単調さを避けるために、この講義では主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。

【授業計画】
1．教育法規の種類および憲法の教育条項
2．教育基本法
3．義務教育をめぐる諸問題（1）
4．義務教育をめぐる諸問題（2）
5．学校教育と学習指導要領
6．指導要録の作成目的
7．教育法規と教師（1）
8．教育法規と教師（2）
9．教育法規と教師（3）
10．教科書と教育法規
11．学校保健・給食と教育法規
12．情報公開と教育
13．勅令主義・法律主義をめぐる問題

【成績評価の方法】
論述試験による。

【参考文献】
竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

【備考】
毎回、プリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後にしか配布しません。講義内容は、下記の参考文献に含まれる事項も多いです。質問や意見は、質問票ないしE-mail（takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。積極的にお願いいたします。

科　目　名			
教育方法学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	冷　水　啓　子

【講義概要・学習目標】
この「教育方法学」では，伝統的な反復練習に基づく学習とともに，子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら主体的に学び，学ぶ楽しさ・充足感を味うことのできる学習とは何かを考える。現行の学習指導要領では，「生きる力」の育成が重視されているが，それは「自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する能力」といった側面を持つ。そこで，このような学習能力を育成するための「教育の方法および技術」に関する理論，および授業（教科学習および総合的な学習の時間）への活用法を学び，教師としての実践的指導能力の基盤作りを目指す。
具体的には，はじめに，教授・学習活動および教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し，子どもの学習意欲を促進させる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに，子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためにコンピュータ教育利用を取り上げ，その利用の仕方や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に学習する。
なお，これは教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして，本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は，コンピュータ，OHC，VTR，印刷物などにより適宜提供する。受講に際し，各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【授業計画】
1．はじめに
2．教授・学習活動
　1）学習とはなにか
　　①条件づけ
　　②認知理論と観察学習
　2）学習と認知：推理と問題解決
　3）学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
3．教授・学習過程
　1）授業における教授・学習過程
　2）個人差と学習指導
4．教育測定と学習評価
　1）教育測定
　2）学習評価
　3）学力とは何か
　4）心理テストの利用
5．コンピュータの教育利用：その理論と技法（コンピュータ実習を含む）
　1）コンピュータの教育利用に関する諸問題
　2）インターネットの利用
　3）コンピュータを活用した報告書の作成
6．全体のまとめ
7．学期末試験
〔但し，授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある

【成績評価の方法】
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中，必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】
教科書は使用しないが，参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を，個人で購入するか本学図書館から借りるかして，予習・復習で活用すること。

【参考文献】
波多野誼余夫・稲垣佳世子（共著）『人はいかに学ぶか―日常的認知の世界―』（中公新書）
桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2006年度版）

教職課程研究会（編）『教職必修 教育の方法と技術』（実教出版）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会）
多鹿秀継（著）『教育心理学』サイエンス社

科目名			
教職演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	冷水啓子
02	秋学期	2単位	竹中暉雄
03	秋学期	2単位	林陸雄
04	秋学期	2単位	島田勝正

か行

【講義概要・学習目標】

国際化時代・グローバル化時代の今日、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている事実を認識し、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成することは、世界市民を目指す本学の学生にとって極めて重要な課題である。教職を目指し、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとするものには、なおさらのこと、この感性と行動力の育成は不可欠の課題であるといえる。

この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報化社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等が考えられる。

各自はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容を模擬授業形式で発表しつつ、それらの内容をグループの共同責任の形で授業案にまとめ、最後に授業案に基づく研究授業を行なう。

【授業計画】

1．授業目標と方法について。個別テーマの概略紹介。各自のテーマ決定
2．学校現場での授業例の研究（ゲスト講師）
3．学校現場での授業例の研究（ゲスト講師）（講師の都合により日程変更の可能性あり）
4．個別テーマに関する発表と討議
5．個別テーマに関する発表と討議
6．個別テーマに関する発表と討議
7．個別テーマに関する発表と討議
8．個別テーマに関する発表と討議
9．授業案の作成
10．授業案の作成
11．授業案に基づく研究授業
12．授業案に基づく研究授業
13・授業案に基づく研究授業
14．総括・反省

【成績評価の方法】

出席、発表、討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

科　目　名			
教職概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	竹　原　正　浩

【講義概要・学習目標】

1997年、教育職員免許法が改訂された。改訂のポイントはそれまでの教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚力に力点が置かれたことだ。

これを受けて、この科目も必修科目として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年が示す様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方にたいする厳しい目が注がれている。

生徒の成長を援助し、生徒の成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。できる限り現場の声を科目に反映させたい。

履修する以上、教職に就くという強い目的意識をもって授業に臨んでほしい。単に資格をとる目的で履修するのは困る。中途半端な授業態度になりがちで、教職を目指す人達の授業努力を妨げることになりかねない。

【授業計画】

1．日本の義務教育
2．教職と教育全般について
3．教師の仕事
4．教師の資質能力
5．教科指導（1）
6．教科指導（2）
7．教科外指導（1）
8．教科外指導（2）
9．学力について
10．学級経営
11．進路指導
12．教育の危機
13．今日の教育問題
14．教師と公教育のあり方
15．テスト

【成績評価の方法】

数回のレポート、期末考査の結果を総合して行う。
但し、３分の２以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【テキスト】

教科書は使用しない。
授業ごとに、教材資料プリントを配布する。従ってプリント整理用のファイル等が必要。

【参考文献】

教育方法論（一藝社）　教師論（一藝社）　新教育原理（ミネルヴァ書房）
子どもが壊れる家（文春新書）

科　目　名			
行政法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	寺　田　友　子

【講義概要・学習目標】

行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。それゆえ、行政法の数は多く、現行法規の80%を占める。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法＝国家賠償についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらう。
憲法、民法を履修した上で、受講してほしい。

【授業計画】

1　取消訴訟の一つの判決
2　情報公開制度
3　取消訴訟の概略
4　国家賠償
5　法律による行政法の原理
6　行政組織と行政立法
7　行政行為の概念と種別
8　行政行為の瑕疵
9　職権取消と撤回
10　行政手続
11　行政計画
12　行政強制
13　行政調査
14　行政指導

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行う。毎回提出してもらうチェックペーパー等も評価に加味する。期末テストと同等の評価対象である中間テストを春学期の中間時期に行う。

【テキスト】

小高剛・寺田友子・由喜門眞治・牛嶋仁『行政法総論』2006年ぎょうせい
『ポケット六法　平成18年版』(2005年・有斐閣)

【参考文献】

『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第５版)』2006年・有斐閣
塩野宏『行政法Ⅰ（第４版)』2005年・有斐閣
原田尚彦『行政法要論（第６版)』2005年・学陽書房
芝池義一編『判例行政法入門（第３版)』2005年・有斐閣

科目名			
行政法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	寺田友子

【講義概要・学習目標】

多様な内容をもつ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。その理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校といわれる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得という点だけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。更に、そこで勤務する職員の法的地位について理解を深めるために、「地方公務員法」を「国家公務員法」と対比して講義する。

「地方自治法」及び「公務員法」を講義する過程で、「行政法I」で不十分にしか講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について理解を一層深める。地方自治法または公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。又、行政法Ⅰで不十分にしか講義できなかった客観訴訟の1つである住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。

春学期において「行政法I」を履修して受講することが好ましい。

【授業計画】

地方自治法

1　地方自治の本旨とは
2　地方公共団体の種類と区域
3　地方公共団体の住民
4　普通地方公共団体の事務と立法権
5　普通地方公共団体の議会
6　普通地方公共団体の執行機関
7　長と議会との関係
8　地方公共団体の財務
9　国と地方公共団体との関係

地方公務員法

1　公務員の意義
2　公務員の種類
3　労働基本権の制約
4　地方公務員法の特例（地方公営企業の職員・消防職員・警察職員）
5　人事行政機関（任命権者と人事委員会・公平委員会）
6　公務員の任用
7　住民訴訟の判例に見る地方公務員の地位

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行う。期末テストと同等の評価対象である中間テストを秋学期の中間時期に行う。毎回提出してもらうチェックペーパー等も評価に加味する。

【テキスト】

『ポケット六法　19年版』（有斐閣　2006年10月出版予定）
別冊ジュリスト『地方自治判例百選（第3版）』（有斐閣・2003年）

【参考文献】

橋本勇『入門・地方公務員法』最新版・学陽書房
その他、講義中に指示する。

科目名			
共通教養特別講義－映画学入門			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	中村秀之

か行

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は2つあります。第1は、映画を「芸術」として享受し、それについて考えるための基本的な道具（概念装置や理論的枠組み）を習得すること、第2は、映画を芸術作品固有の特性にもとづいて観るための基本的な技法を身につけること、以上です。映画は人間によって創造され（「作品」として存在する）、独特の意味作用を行ないます（「テクスト」として機能する）。

したがって本講義のアプローチは「美学」的なものです。産業としての映画の「歴史」や、映画にかんする諸制度や観客による受容のあり方といった「社会学」的な話題については、特に必要な場合にのみ触れることになります。

なお、素材として取り上げる映画作品は、時代、国籍（？）、ジャンルなどにとらわれません。必要に応じて、一部の人は観たくないと思うかもしれない種類の作品（たとえば「ホラー映画」のような）を見せることもあります。この点を特にお断りしておきます。

【授業計画】

次のような項目を予定しています。4と5が本論にあたります。

1．映画はどのような芸術か
　— 「変化」の芸術としての映画
2．映画学とはどのような学問か
　— 映画消費／映画批評／映画学
3．映画の技術的な三要素　— 投影・運動・写真の総合
4．映画の形式的な諸要素
　— ショット、フレーム、演出（ミザンセーヌ）、編集（あるいはモンタージュ）
5．映画の物語　— 語りの構造とイメージの体系

スケジュールについては初回授業で説明します。

【成績評価の方法】

小テストとレポートによって評価します。
詳細は初回授業時に説明します。

【テキスト】

授業中にプリントを配布します。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介をします。

【備考】

この授業の潜在的な狙いの1つは、映画をより多く観たいという欲望を喚起することにあります。しかし同時に、受講生が自主的に映画体験を豊富にする（自分でどんどん観る！）ことも要求します。芸術について古くから言われている真理、「わかる」ためには数多くの作品、しかも優れた作品に集中的に触れること、これは映画についても当てはまることなのです。

科　目　名			
共通教養特別講義－企業と情報公開			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	朴（パク）　大栄（テヨン）

【講義概要・学習目標】

企業組織の代表である株式会社法人は、われわれ自然人に対してその集団性から、財力・知力ともにより優位な立場にある。したがって、企業法人には、公人に近い義務と責任があり、多様な利害関係者すなわちステークホルダーを意識した経営が求められている。この企業活動を監視・監督し、健全かつ効率的な経営を実現させるためのコーポレート・ガバナンスが大きな関心事となっている。

コーポレート・ガバナンスの一つが、企業内容の透明性を図ること、すなわち、迅速かつ適切な情報公開である。決算公告や、有価証券報告書の発行、環境報告書の発行などはその一例である。また、開示情報自体の信頼性・適正性も問題となる。財務諸表監査はその役割を担うものである。

本講義においては、企業がコーポレートガバナンスの一環として公開する情報にどのようなものがあるか、その公表理由は何か、情報の信頼性はどのように確保されるのか等、企業の情報公開に焦点を合わせて、その重要性を解説することを目的とする。

【授業計画】

講義の最初に提示する。

【成績評価の方法】

定期試験・講義中の小テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【テキスト】

とくに指定しないが、講義中に資料を配付する。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

科　目　名			
共通教養特別講義－現代社会と組織倫理			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	谷口　照三

【講義概要・学習目標】

今日、倫理学に関心が集まっている。それは、今進行しつつある「社会における諸関係」の変化や改革と無関係ではない。倫理とは、「健全な諸関係の構築」を下差さえしたり、先導したりする価値的態度であり、知恵である、と思われる。倫理や倫理学への関心の増大は、「健全な諸関係の構築」を人々が希求していることの証左である。

この講義で目指そうとしているのは、主として、現代社会における代表的な組織である企業を取り巻く（環境倫理、生命倫理などとの関連を含む）倫理的問題状況を取り上げ、その問題の性質を理解すると共に、そのような問題を克服する契機となりうる視座を学ぶことである。その際、とりわけ、かかる問題の背景となっている「組織社会としての現代社会とその変容」を理解すること、さらに倫理問題を惹起することにおいても、その解決へのプロセスを動かすことにおいても重要な係わりをもつ「組織の本質」に着目することが大切である。

組織は強力なパワーをもつ。それは、組織が「固有の倫理的価値」を創り出すことと無関係ではない。倫理的な生活を生きようとする社会の人々の能力は、この様な「組織の倫理」に深く影響されている。それ故に、社会が、またわれわれがより「健全な諸関係の構築」を望むならば、組織が非倫理的および倫理的になる可能性とそこで働く人々や他の利害関係者の行動へのそれらの影響により関心を持たなければならない。さらに、それと同時に、働く人々や他の利害関係者に対しても、いい意味でも悪い意味でも「組織の倫理」の形成に参加しているということへの自覚が要請されよう。

以上のような点を21世紀に生きる皆さんと共に考えていきたいと思っている。

【授業計画】

Ⅰ．緒言―組織倫理を語る視座―（第 1,2回）

Ⅱ．組織社会としての現代社会とその変容(第 3, 4, 5, 6回)

Ⅲ．現代社会の倫理的問題状況―企業倫理、環境倫理、生命倫理を中心に―
（第 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回）

Ⅳ．現代社会における組織の重要性とその意味の変容
（第16, 17, 18, 19回）

Ⅴ．組織における倫理と組織の倫理（第20, 21, 22回）

Ⅵ．組織の責任と組織倫理の創造（第23, 24, 25, 26回）

Ⅶ．結言―組織倫理的パラダイムの可能性―（第27, 28回）

【成績評価の方法】

出席状況と試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（レジュメを配布する）。

【参考文献】

必要に応じて適宜指示する。

科　目　名			
共通教養特別講義－現代の日本企業			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	正　亀　芳　造

【講義概要・学習目標】
人口の減少と高齢化の進展、厳しさを増す国際競争、経済の成熟化、等々。近年の日本企業は、こうした経営環境の激変に直面し、新たな対応を模索しています。本講義の目的は、現代の日本企業に焦点を当て、その基本的な仕組みや行動を明らかにすることにあります。新聞記事やビデオも適宜活用しながら、現代の日本企業の現実の姿を可能な限り多面的に解明したいと思います。

【授業計画】
講義では、次のような論点を扱う予定です。
1．日本企業を取り巻く経営環境の変化
2．企業とは：個人企業と株式会社
3．株式会社の機関
4．日本企業のコーポレート・ガバナンス
5．企業の社会的責任と社会貢献
6．地球環境問題と企業の対応
7．かわる企業金融
8．企業間関係
9．中小企業
10．経営戦略
11．経営組織
12．経営の国際化
13．進む人事・雇用制度改革

【成績評価の方法】
①期末試験の成績、②レポート、③講義中の小テストの成績、を総合して評価します。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献】
吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(三訂版) 同文舘、2003年。
深山　明・海道ノブチカ編著『経営学の基礎』同文舘出版、2003年。
その他、講義中に適宜指示します。

科　目　名			
共通教養特別講義－社会学の基礎			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	原　田　　達

【講義概要・学習目標】
もう一度社会学を学びなおしたい学生さんを対象にして、社会学の基礎から講義します。
社会学はつかみ所のない学問だと言われています。しかし、そんなことはありません。社会学は「人と人の関係＝人間関係」を研究する学問であり、「集団」を研究する学問であり、そして「文化」を研究する学問です。ただこのことだけを押さえてくれればいいのです。これが社会学の研究の対象、つまり料理の素材です。ね、簡単ですね？
あとは切り口の問題です。いわば料理の仕方。この料理の仕方を講義でお話しします。

【授業計画】
・社会（科）学の発想
・人間と社会
・言葉の問題
・コミュニケーション・相互行為
・集団
・役割
・若者文化
・映画の読み方
・日本文化
・社会学の巨人たち

このようなテーマを予定していますが、予定通りに進行するかどうかは不明です。シラバスは修正されます。それが「生きた」シラバスです。

【成績評価の方法】
試験をします

【テキスト】
使用しません

【参考文献】
その都度指示します

か行

科　目　名			
共通教養特別講義－日本の安全保障			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	松　村　昌　廣

【講義概要・学習目標】
本講義は「英語で」勉強するコースであり、「英語を」勉強するコースではありません。想定する英語力は英検１級、TOEFL550点、もしくは、同等の英語力です。具体的には、欧州からの交換留学生、帰国子女、英語圏で本格的な大学の講義を受けたことがある学生です。毎回、論文や本の章など、50ページ程度の読書を要求し、セミナー形式での討論を全て英語でおこないます。したがって、英語力が不足する学生に対する配慮は全くありません。
This lecture is designed primarily for foreign exchange students, and English is used as the only instructional language. Yet, those who have good command of English are welcomed. Every week, students are required to read some fifty pages, such as a working paper or a book chapter, and actively participate in class discussion.
when deemed necessary,addisional reading assignments will be given.

【授業計画】
This seminar-style course will examine Japan's national security during and after the Cold War, with emphasis on the continuity and discontinuity of alliance relationships between the United States and Japan. The assigned readings and lectures will cover geostrategic environment of East Asia, dynamic changes of the triangular relations among the United States, Japan, and China, and durability of the U.S.-Japan alliance. Taking this course, students are expected to learn basic historical and policy perspectives as related to Japan's national security.

Students are required to read the selected papers from the Japan Project of the National Security Archive located at George Washington University ＜http://www ２.gwu.edu/~nsarchiv＞.

【成績評価の方法】
Students are required to write an essay (4000 words) on a specific topic to be given.
For the final grade, the essay accounts for 70 %, while class participation for 30%.

【テキスト】
Mike Mochizuki, TOWARD A TRUE ALLIANCE: RESTRUCTING US-JAPAN SECURITY POLICY, Brooking Institution Press, 1997.

【参考文献】
1) Gallicchio, “Japan in America security policy” 2) Schaller, “The Nixon Shock and US-Japan strategic relations 1969 - 74” 3) Soeya, “US-Japan-China relations and the opening to China” 4) Green and Murata, “The 1978 Guidelines for the US-Japan Defense Cooperat

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
共通教養特別講義－日本の産業構造分析			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	中　野　瑞　彦

【講義概要・学習目標】
本講義では、日本の主要な産業についてその特徴を分析するとともに業界を取り巻く環境の変化、将来性について考察する。単に業界の分析を行うだけではなく、各業界を代表する具体的な企業を採り上げて、その経営内容、経営戦略についても考察する。本講義は、就職準備のための業界研究としても有益であるので、就職希望者に受講を薦める。

【授業計画】
１．戦後日本の産業構造の変化とその特徴
(以下は採り上げ予定の業界。但、適宜変更あり)
２．化学産業
３．繊維産業
４．鉄鋼産業
５．電気機器産業
６．自動車産業
７．小売業
８．印刷産業
９．出版業
10．薬品産業
11．IT関連産業
12．金融業
13．その他

【成績評価の方法】
中間試験（１回）と学期末試験により評価する。出席は評価対象としない。

【テキスト】
未定。別途指示する（生協にて販売予定）

【参考文献】
未定。別途指示する。

科　目　名			
共通自由特別講義－IT活用の実際			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	藤　間　　真

【講義概要・学習目標】
新聞・雑誌にURL（いわゆるホームページアドレス）が掲載されない日が無くなったことからもわかるように、IT（Information Technology）は私たちの社会に深く根付いている。
本講義では、各業種でITを活用している現場の管理職の皆さんにおいでいただいて、最先端の企業の活用状況を話していただく。また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【授業計画】
１回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。
２回目以降に関しては講義計画執筆時（2006年１月）現在交渉中である。
最終回にまとめを行う。
参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す（順不同）。
＜題目＞
・コンピュータのホスティングサービス
・全社的セキュリティ対策
・企業経営とIT
・製鉄業とIT
・メデイアにおけるコミュニケーション技術
他
＜企業＞
新日鐵、IBM、松下、ダイキン、ダイエー、東洋アルミニウム、ファーストサーバー、武田薬品工業、テレビ大阪、NTTドコモモバイル社会研究所
他

【成績評価の方法】
毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。
詳細は１回目のオリエンテーション時に説明する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
講義中に指示する。

科　目　名			
共通自由特別講義－海のアジアと日本史Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	藤　田　加代子

か行

【講義概要・学習目標】
近年、日本の歴史を日本国内に限定せず広くアジア史の中でとらえなおそうという試みが盛んである。この講義では、中国、朝鮮、さらに東南アジア諸地域を含めた海域アジアに日本を位置づけ、海外貿易・外交・文化交流などの対外関係を通じて日本という国がどのように形作られてきたのかを考えたい。特に、ヨーロッパ人が初めてアジアの海に現れた16世紀以降、彼らの貿易・植民活動・キリスト教布教を通じて新大陸やヨーロッパまでをおおう世界経済が形成されたが、そうした世界の一体化の過程で日本が果たした役割にはとくに注目していきたい。さらに、19世紀以降の日本によるアジア諸国の植民地化と現地の人々の抵抗についても、現代の日本社会に深くむすびついた問題として検討する。

【授業計画】
時代順に、下記の大きなテーマ群に従い、各回の講義でトピックを絞って解説する予定である。
（１）はじめに：海から日本史を見るとは？
（２）考古学と海の日本史
（３）「日本」の誕生と中国の影響
（４）古代日本と中国の政治・文化
（５）拡大するアジアの交易と中世日本
（６）近世グローバリティと徳川日本
（７）幕末維新期の国際関係
（８）アジア間貿易の発展と明治日本
（９）大日本帝国とアジアの人々

【成績評価の方法】
出席、参加度、講義時の小テスト、中間および期末レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献】
歴史教育者協議会編『東アジア世界と日本　日本・朝鮮・中国関係史』青木書店、2004年。
『新視点日本の歴史』全７巻、新人物往来社、1993年。
（その他、講義中に随時紹介する。）

科　目　名			
共通自由特別講義－海のアジアと日本史Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	藤　田　加代子

【講義概要・学習目標】

This lecture/discussion course is primarily designed for exchange students from abroad to provide an introductory historical overview of Japan's foreign relations from the earliest times to the beginning of the 20th century, and to place that knowledge in the wider context of world history. The course is also open to all students of St. Andrew's University who are enthusiastic about considering Japanese history from a new perspective and participating in discussions with overseas students about the issues described below.

The main focus will be on Japan's interaction with other states or regions of maritime East and Southeast Asia (e.g., China, Korea, Taiwan, Vietnam, Thailand, and Indonesia) and their effects on Japanese economy, society, and material culture. Japanese imperial rule on the life of the people in these areas and the popular protest against the rule, the decolonisation, and the aftermath will also be addressed. Moreover, the process through which Japan has been incorporated into the "World Economy" since the coming of the Western merchants and missionaries in the 16th century will be deeply analysed. Topics that will be reviewed include state-formation, diplomacy, foreign trade and domestic economy, agricultural development, material culture, religion, scholarship, and ethnic identity.

The language of the course is English.

【授業計画】

Thematic blocks that will be covered during the course are as follows (subject to change) :

1 Introductory overview

2 Prior to statehood: archaeology and the mythology of the ancient Japanese

3 The Yamato age and the Chinese impact

The early Chinese influence on Japan's institutions and culture

4 Classical Japan: The aristocratic age

Official missions to China and their political and cultural impacts

5 To the late-medieval ages

The Mongol invasions (1274 & 1281) and their impact

North- and Southeast Asia in the Age of Commerce

The coming of the Portuguese and Christianity

Japan's Invasions of Korea (1592 & 1597)

6 Tokugawa Japan (1603-1868): The making of sakoku (closed country)

From the Portuguese to the Dutch East India Company: Trade and science

The relationship with the Kingdoms of Korea and Ryukyu and the Ainu

Changing material culture: Foreign products and import substitution

7 Meiji Japan (1868-1912) and its foreign relations

The coming of Western powers and the unequal treaties

Okinawa, Taiwan, and Korea: Japan's overseas expansion

The development of intra-Asian trade and the world economy

Japan and World War I (1914-1918)

【成績評価の方法】

Assessment will be based on classroom participation, one oral presentation (10 minutes) , and two essays, that is, one short essay (around 1,500 words) and one final research paper (around 3,000 words) . Students will be required to give an oral presentation on a topic related to his/her short essay one week before submission of that essay. Late submissions (without a good reason) will not be accepted for credit. Students are expected to attend all classes, and to come to the classes well prepared to contribute to the discussions.

Classroom participation 20%
One oral presentation 20%
One short essay 20%
One long essay 40%

＊日本人学生の皆さんへ　日本の歴史を留学生との討論を通じて勉強する意欲のある方は大いに歓迎します。なお、この授業は講義・ディスカッション・口頭発表・レポートなど一切が英語で行われますので、自分の英語のレベルを慎重に考慮した上で受講してください。

【参考文献】

Duus, Peter. 1998. Modern Japan. 2d ed. Boston: Houghton Mifflin.

Hane, Mikiso. 1991. Premodern Japan: A historical survey. Boulder and Oxford: Westview Press.

Reid, Anthony. 1988 and 1993. Southeast Asia and the age of commerce, 1450-1680. Vol. I and II. New Haven: Yale University Press.

Toby, Ronald. 1984. State and diplomacy in early modern Japan: Asia in the development of the Tokugawa bakufu. Princeton: Princeton University Press.

(More suggested reading will be announced in class)

【備考】

英語による授業です

科　目　名			
共通自由特別講義―海外英語留学準備講座Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村　瀬　寿　代

【講義概要・学習目標】
留学予定者対象の講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。秋学期に留学を希望する学生は、共通自由特別講義―海外英語特訓準備Ⅱも必ず受講すること。また、その他の学生も２講座を合わせて受講することが望ましい。
主にリーディングとライティングを中心に講義をすすめる。留学した際必要となるリーディング力、ライティング力を、分野を問わず身につけるためには、講義に参加するだけでは到底不可能である。課題も多く、自宅での学習も相当量必要となるので、勉強を本気でやるという覚悟を持って受講すること。どのように勉強していくかということは、講義中に詳しく指示するので、たとえ英語力に自信を持たない学生であっても、やる気さえあれば、力がつく内容である。また、海外事情、留学中の生活なども適宜紹介する。

【授業計画】
テキストに沿って授業をすすめる。

【成績評価の方法】
レポートの提出、毎回の小テスト、講義の出席、TOEFLスコアなど総合的に判断する。

【テキスト】
LONGMAN PREPARATION COURSE FOR THE TOEFL TEST NEXT GENERATION iBT
別にハンドアウトを配布する。

【参考文献】
講義中に指示する。

科　目　名			
共通自由特別講義―海外英語留学準備講座Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村　瀬　寿　代

【講義概要・学習目標】
留学予定者対象の講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、学部留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。秋学期に留学を希望する学生は、共通自由特別講義―海外英語特訓準備Ⅰも必ず受講すること。また、その他の学生も２講座を合わせて受講することが望ましい。
主にスピーキングとリスニングを中心に講義をすすめる。留学すれば、生活に必要なスピーキングやリスニング力は比較的容易に身につくが、この講義では、大学の授業を理解し自分の意見を論理的に述べるレベルの英語力を養うことを目的とする。英語を聞く、話すことは、なによりもまず慣れることである。どのように学習していけば効果的であるのかは、講義中に指示するので、意欲がある学生であれば、半年の講義で相当の力がつくと期待する。また、海外事情、留学中の生活なども紹介する。

【授業計画】
テキストに沿って授業をすすめる。

【成績評価の方法】
講義の出席、TOEFLスコアなど総合的に判断する。

【テキスト】
LONGMAN PREPARATION COURSE FOR THE TOEFL TEST NEXT GENERATION iBT
別にハンドアウトを配布する。

【参考文献】
講義中に指示する。

科　目　名			
共通自由特別講義－海外留学事情			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	坂　昌　樹

【講義概要・学習目標】
海外留学・研修に関心のある学生は、ぜひ聞きに来ていただきたい講義です。
桃山学院大学は、アジア、ヨーロッパ、北米、オーストラリアにいくつもの協定校をもち、そうした協定校への長期留学、各国での短期語学研修、さらに日本語教育実習や国際ボランティアなど多様なプログラムを実施しています。この講義ではこうしたプログラムへの参加を希望する学生のために、外国語の勉強法、各国の大学・社会事情、留学・研修の意義、将来の展望など、各国の事情をよくご存知の先生方に順番に講義していただきます。
留学は若者にとって特別の体験です。外国語と異文化のなかで苦労しつつ、しかし日本にいたのではわからない多くのことを学べます。自分では信じられないほど勉強する機会にもなるでしょう。そんな体験をより多くの学生にしてほしいと思います。そのためにこの講義では、海外留学にかんする学生の漠然とした不安を取り除き、明確な課題を見出すことを目標にします。

【授業計画】
Ⅰ．導入：桃山学院での留学・研修の可能性について
Ⅱ．外国語学習の方法と体験
Ⅲ．各国事情：英語圏、中国、台湾、韓国、ロシア、インドネシア、フランス、イタリア、ドイツ、日本語教育実習
(ゲスト講師の都合によって、各国事情の順番を変更することがあります。)

【成績評価の方法】
毎回の授業後に提出してもらう感想文を中心に、授業中の質疑応答もふくめて、総合的に評価します。

【テキスト】
指定しません。重要な資料は、担当教員がプリントとして配布します。

【参考文献】
必要があれば、講義中に指示します。

【備考】
インテグレーション科目

連絡先：(研究室) アンデレ館７階725室
(tel) 0725-54-3131 (内線) 3725
(Email) ban@andrew.ac.jp
面談：在室中は、随時可能です。

科　目　名			
共通自由特別講義―キャリアデザインⅠ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02 03 04 05 06	春学期 春学期 春学期 秋学期 秋学期 秋学期	2単位	野　口　由輝子

【講義概要・学習目標】
本講義は受講生自身の学生生活を実際に充実させるための方法を個別的に考えていきたい。そして、その中で受講生自身の目標設定能力、課題発見能力（問題意識の醸成）、計画力、情報収集力、情報活用力、対人関係構築能力、そのために必要なコミュニケーション能力（計画書作成、計画発表）など、キャリア・デザインをすすめるためのベーシック・スキルを身につける。
後期は学生生活の充実と仕事の基本能力の関係性を様々な学生のライフタイルを通じて研究する。

【授業計画】
①オリエンテーション
②大学時代にチャレンジしたいことの発見
③目標設定～チャレンジしたいことを具体的に目標化してみる
④課題発見～目標を達成するための課題を整理しよう
⑤行動計画～課題をどう解決していくのか
⑥計画書作成～自分の計画をわかりやすく表現する～
⑦コミュニケーションⅠ～自らの計画を聞いてもらう～
⑧コミュニケーションⅡ～自らの計画を聞いてもらう～
⑨情報収集Ⅰ～課題解決のための知識獲得法
⑩情報収集Ⅱ～課題解決のための対人関係
⑪情報活用トレーニングⅠ～身の回りのことで創造力を鍛えよう（問題発見、問題解決のプロセスを体験する）
⑫情報活用トレーニングⅡ～身の回りのことで創造力を鍛えよう
⑬コミュニケーションⅢ～問題提起そしてその解決法を聞いてもらう
⑭コミュニケーションⅣ～問題提起そしてその解決法を聞いてもらう

【成績評価の方法】
出席・感想文（毎回の授業で得たことを簡単に整理）60%
演習目標の達成度（期末のレポート）40%

【テキスト】
ワークブック
必要に応じてプリント配布

科　目　名			
共通自由特別講義―キャリアデザインⅡ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期	2単位	中　山　一　郎
02	春学期		
03	春学期		
04	秋学期		
05	秋学期		
06	秋学期		

【講義概要・学習目標】
本講義は受講生自身の将来像やビジョンを具体的にしていくための方法を個別的に考えていきたい。そして、その中で受講生自身の目標設定能力、課題発見能力（問題意識の醸成）、計画力、情報収集力、情報活用力、対人関係構築能力、そのために必要なコミュニケーション能力（ビジョンシート作成、提案発表）など、ベーシック・スキルのさらなるレベルアップを図る。後期は様々な人たちのワークスタイルの研究を通じて受講生の将来像やビジョンを考える上での多くの選択肢を検討する。

【授業計画】
①オリエンテーション
②なりたい自分を考える～５年後、３年後、そして１年後～
③自己分析Ⅰ～なりたい自分になるために具体的に目標化してみる
④自己分析Ⅱ～なりたい自分になるための強み・弱点を整理する
⑤自己分析Ⅲ～強みをどう活かし、弱点をどう補強するのか具体的に考える
⑥ビジョンシート作成～自己実現のためのシナリオをわかりやすく表現する～
⑦コミュニケーションⅠ～ビジョンを聞いてもらう～
⑧コミュニケーションⅡ～ビジョンを聞いてもらう～
⑨自己啓発のための情報活用法
⑩社会人との人脈形成法
⑪グループワークⅠ～社会の不安・不満・不便を発見し、その解決法を考える
⑫グループワークⅡ～社会の不安・不満・不便を発見し、その解決法を考える
⑬プレゼンテーションⅠ～提案を聞いてもらう
⑭プレゼンテーションⅡ～提案を聞いてもらう

【成績評価の方法】
出席・感想文（毎回の授業で得たことを簡単に整理）60%
演習目標の達成度（期末のレポート）40%

【テキスト】
ワークブック
必要に応じてプリント配布

科　目　名			
共通自由特別講義－経営戦略と特許			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	辻　　洋一郎

【講義概要・学習目標】
何かをしたいとき、まわりの状況を知り、具体的な目標を立て、さらに自分の資源をどのように配分することが大切です。これは個人の話だけではなく企業でも同じです。企業のこうした行動を経営戦略をたてて実行する、と言います。本講義では、経営戦略の実際をわかりやすく解説するのが第一の目的です。また最近企業活動のなかで特許戦略が重要視されています。本講義ではこの「特許」に焦点をあてて、その制度や企業の現場での実態などを経済学・経営学の観点から講義します。
企業での実例や具体的な商品／サービスに即して講義しますので、好奇心さえあれば、予備知識は必要ありません。

【授業計画】
順不同で、次の項目について、講義します。

①「経営戦略」の概要
②「特許」の概要（骨組みと考え方）
③経営戦略の実際
④経営活動のなかの特許戦略

【成績評価の方法】
試験またはレポート、及び講義への参加態度で評価します。
出席はとりません。

【テキスト】
必要に応じて講義中に指示します。

【参考文献】
必要に応じて講義中に指示します。

科　目　名			
共通自由特別講義－職業を考える			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	深　谷　清　之

【講義概要・学習目標】
日本独特の雇用形態であった「終身雇用」は、すでに実社会では崩壊し、定年まで１つの会社で過ごすことは、難しい状況になってきた。
また、学生諸君の就職活動も、４回生になってから準備したのでは間に合わないことも事実である。しかし、卒業後の進路をどうするのかということを決めることは、容易なことではない。
まず、実社会の現状を正しく認識する必要がある。そこで、本学の卒業生を含めて、現役の職業人から、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など多様な体験を講義していただき、働くことの意味やその実態について学び、自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とする。
なお、講義の性格上、実際の就職活動を控えている２回生と３回生の受講が望ましい。

【授業計画】
次のような講義計画を予定している。なお、初回の「講義紹介」と最終回の「講義のまとめ」以外は、講師の都合等により、変更される場合がある。全体で12回程度を予定している。
①講義紹介
②各業界の紹介
　建設、薬品、自動車、教育、百貨店、金融等
③講義のまとめ
　なお、本講義では働くことの意味を学ぶだけでなく、実際の就職活動に役に立つ知識も身につけるように工夫する予定である。

【成績評価の方法】
出席とレポート、小テストなどを総合的に評価する。

【テキスト】
とくに使用しない。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
共通自由特別講義－職業を考える・福祉			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	石　田　易　司

【講義概要・学習目標】
　社会福祉学科卒業後、職業人として活動する場としての社会福祉施設、社会福祉機関、NPOなどの現場で働く人の話を聞き、自身の職業観を身につけると共に、大学生活で学ぶ目的を明確にする。

【授業計画】
１．大学生活と就職
２．福祉職場の概要
３．高齢者・障害者・児童施設　1
４．高齢者・障害者・児童施設　2
５．高齢者・障害者・児童施設　3
６．地域福祉の現場　1
７．地域福祉の現場　2
８．NPO/NGO
９．社会福祉機関・行政
10．精神保健福祉現場
11．病院
12．職業観と大学で学ぶこと

【成績評価の方法】
出席とレポート

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
共通自由特別講義－日本アニメの諸相			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	藤　森　かよ子

【講義概要・学習目標】
In this course the major works of four representative Japanese animation creators--Osamu Tezuka, Hayao Miyazaki, Katsuhiro Otomo and Mamoru Oshii--will be examined and analyzed. The discussion will be developed according to the comments you are required to submit every class. Your opinions and insights are expected to contribute to the success of this course.

To learn Japanese high culture enables you to perceive Japanese ethics and aesthetic: How Japanese people have been thinking about what Japanese people should be and what they should do.

To experience Japanese low culture (pop culture) helps you to grasp the desires and dreams which Japanese people subconsciously hold: what they are and what they want to be. ANIME is one of the most informative materials for you to profoundly understand Japan and Japanese people, whether you are Japanese or no-Japanese. In general desires and dreams seem absurd and foolish. That's human!

【授業計画】
Lecture 1: A Short history of MANGA as an origin of ANIME
Lecture 2 : ANIME before World War II and that before Osamu Tezuka
Lecture 3--Lecture 6: Osamu Tezuka
Lecture 7--Lecture 10: Hayao Miyazaki
Lecture11: Katsuhiro Ohtomo
Lecture12--Lecture13: Mamoru Oshii
Lecture14: Summing up ANIME

【成績評価の方法】
Assessment will be based on classroom participation, comment papers you are required to submit every class and one semester-end paper. Classroom participation 20 % comment papers 30% The semester-end paper 50%

【テキスト】
No textbook.

【参考文献】
Frederic L, Schodt. The World of Japanese Comics. Kodansha, 1983.

Helen McCarthy, Hayao Miyazaki, Master of Japanese Animation. Stone Bridge Press, 1999.

Annie Allison. Permitted and Prohibited Desires: Mothers, Comics, and Censorship in Japan. U of California P, 2000.

Jonathan Clements & Helen McCarthy, The Anime Encyclopedia: A Guide to Japanese Animation Since 1917. Stone Bridge Press, 2001.

Susan J. Napier, ANIME: from Akira to Princess Mononoke. Palgrave Macmillan, 2001.

Brian Ruh, Stray Dog of Anime: The Films of Mamoru Oshii. Palgrave Macmillan, 2004

【備考】
英語による授業です

科　目　名			
共通自由特別講義－「日本人」意識の形成Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	藤　田　加代子

【講義概要・学習目標】
「われわれ日本人」とは、一体どんな人々なのだろうか？　それは果たして歴史上どの時期をとっても、等しく均質な集団だったのだろうか？
　この講義では、日本の対外関係の歴史を追いながら、現代のマルチカルチュラル（多文化）でマルチエスニック（多民族）な日本社会がどのように生まれてきたのかを考える。とりわけ、16世紀に初めてヨーロッパ人と接触して以来、日本人のエスニック・アイデンティティが外交・貿易・文化交流・植民地化など様々な局面を通じてどう変化してきたかを重点的に検討したい。歴史的な分析だけでなく、外国人労働者に支えられる現代の国内産業のあり方などにも着目し、そこに浮かび上がる「日本人」や「他者」の像について考えてみよう。

【授業計画】
時代順に、下記の大きなテーマ群に従い、各回の講義でトピックを絞って解説する予定である。
（1）はじめに：「日本人」をめぐる言説
（2）考古学と日本人のアイデンティティ
（3）東アジアのなかの中世日本
（4）ヨーロッパ人／キリスト教との接触
（5）変わる世界像：「日本型華夷秩序」の形成と徳川日本
（6）植民地化と「日本人」
（7）現代日本の自画像：外国人労働者

【成績評価の方法】
出席、参加度、講義時の小テスト、中間および期末レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献】
小熊英二『単一民族神話の起源－＜日本人＞の自画像の系譜』新曜社、1995年。
青木保『「日本文化論」の変容－戦後日本の文化とアイデンティティー』中公文庫、1999年。
歴史教育者協議会編『東アジア世界と日本　日本・朝鮮・中国関係史』青木書店、2004年。
（その他、講義中に随時紹介する。）

科　目　名			
共通自由特別講義－「日本人」意識の形成Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	藤　田　加代子

【講義概要・学習目標】

While this lecture/discussion course is primarily designed for exchange students from abroad to provide an introductory historical overview of the formation process of today's multicultural and multiethnic society of Japan since the ancient era, the course is also open to all students at St. Andrew's University who are enthusiastic about considering Japanese history from a new perspective and participating in discussions with overseas students about the issues described below. Stress will be placed on the period from the mid-16th century during which Japan's first encounter with Europeans (the Portuguese) took place. We will explore how the intra-Asian economic and cultural contacts and diplomacy as well as the European expansion to Asia during this period brought gradual but fundamental changes in Japanese ethnic identities, and what the effects of this dynamic interaction were on the coming colonial course of the Japanese nation state.

Various aspects will be examined in order to give students a deeper understanding of the current situation in Japan within a historic context: the transformation of Japanese ethnic identities, the relationships with a different ethnic group inside Japan, economic and diplomatic relations with other states or regions in East and Southeast Asia, and the influx of foreign workers.

【授業計画】

Thematic blocks that will be covered during the course are as follows (subject to change) :

1 Introductory overview
2 Archaeology and Japanese identity
3 Japan under the Chinese World Order
　Historical relations with China
　First contacts with Europeans and Christianity
4 The making of the "Japanese World Order" in the Edo period
　The making of sakoku (closed country)
　The changing image of the Chinese
　"Red hair barbarians" : The Dutch
　The relationship with the Ainu and the Kingdoms of Korea and Ryukyu
5 Modern Japan and the myth of the homogeneous nation
　The coming of Western powers and the opening of Japan
　The emergence of the kokusai kekkon ("international marriage")
　The myth of the homogeneous nation 1 : Korea, Taiwan, and Okinawa
　The myth of the homogeneous nation 2 : Korea, Taiwan, and Okinawa
　The burakumin
6 Contemporary multiethnic/multicultural Japan and politics
　International labour migration

【成績評価の方法】

Assessment will be based on classroom participation, one oral presentation (10 minutes) , and two essays, that is, one short essay (around 1,500 words) and one final research paper (around 3,000 words) . Students will be required to give an oral presentation on a topic related to his/her short essay one week before submission of that essay. Late submissions (without a good reason) will not be accepted for credit. Students are expected to attend all classes, and to come to the classes well prepared to contribute to the discussions.

Classroom participation 20%
One oral presentation 20%
One short essay 20%
One long essay 40%

＊日本人学生の皆さんへ　日本の歴史を留学生との討論を通じて勉強する意欲のある方は大いに歓迎します。なお、この授業は講義・ディスカッション・口頭発表・レポートなど一切が英語で行われますので、自分の英語のレベルを慎重に考慮した上で受講してください。

【参考文献】

Danoon, Donald, Mark Hudson, Gavan McCormack, and Tessa Morris-Suzuki, eds. 1996 . Multicultural Japan: Palaeolithic to postmodern. Cambridge: Cambridge University Press.
Oguma, Eiji. 2002 . The genealogy of "Japanese" self-images. Melbourne: Trans Pacific Press.
Lie, John. 2001. Multiethnic Japan. Cambridge, Mass. and London: Harvard University Press.
(More suggested reading will be announced in class)

【備考】

英語による授業です

科目名			
共通自由特別講義－博物館における諸問題			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	井上　敏

【講義概要・学習目標】

本講義は博物館学芸員課程の専門科目を補足するために開講する。博物館概論では博物館の諸機能についての講義を行ったが、更にその諸機能の深い内容については時間的な問題もあって、十分とはいえない。そこで博物館の諸機能のうち「展示」「教育」「修理」「保存」の４点に絞って、各分野で優れた実績を上げておられるゲスト講師に講義を行っていただく。またキッズ大阪等の見学を行い、実際の現場での知見を深める。

この講義は博物館概論や各論等の知識がないと理解することは難しいため、受講生は博物館学芸員課程受講生が望ましい。少なくともこの分野に興味がある学生の受講を希望する。

【授業計画】

（1）ガイダンス　（井上）
（2）博物館における展示の作り方（1）　（鮫島）
（3）博物館における展示の作り方（2）　（鮫島）
（4）チルドレンズミュージアム（1）　（小原）
（5）キッズ大阪見学（学祭期間中振替）
（6）見学先未定　（学祭期間中振替）
（7）チルドレンズミュージアム（2）　（小原）
（8）博物館における修理（1）　（大林）
（9）博物館における修理（2）　（大林）
（10）保存科学の諸問題（1）　（宇田川）
（11）保存科学の諸問題（2）　（宇田川）
（12）まとめ　（井上）

（講師）
鮫島泰平（乃村工藝社）
小原千夏（ハンズオンプランニング）
大林賢太郎（(株) 文化財保存/奈良国立博物館文化財保存修理所）
宇田川滋正（京都造形芸術大学歴史遺産研究センター）

※この授業計画は予定であり、講師や内容について変更の可能性がある。

【成績評価の方法】

受講態度及び出席点、レポートを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

講義で必要な文献について案内する。

【参考文献】

講義で必要な文献について案内する。

【備考】

インテグレーション科目

科目名			
共通自由特別講義－博物館の職を考える			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	井上　敏

【講義概要・学習目標】

この科目は共通自由科目であるが、博物館学芸員課程の入門講座として開講する。本講義の目的は博物館や文化財保護に関する基本的な知識を習得すると共にこの講義履修後の学芸員課程での学習をスムーズにできるようにしていくことである。

本講義では博物館や文化財保護の仕事をされている３人の桃大OBによって、それぞれの仕事や職について分かりやすく講義していただく。また博物館や文化財保護の職に就くために、在学中どのように学習に取り組んでいけばよいのか等の相談も気軽にしてほしい。

尚、科目の性格上１年生、博物館学芸員課程の受講を考えている学生、或いはそのような職への就職を将来希望している学生が受講することが望ましい。

【授業計画】

（1）ガイダンス　（井上）
（2）文化財保護の職について（1）　（尾谷）
（3）文化財保護の職について（2）　（尾谷）
（4）文化財保護の職について（3）　（尾谷）
（5）博物館学芸員について（1）　（松永）
（6）博物館学芸員について（2）　（松永）
（7）博物館学芸員について（3）　（松永）
（8）博物館の未来について（1）　（山根）
（9）博物館の未来について（2）　（山根）
（10）博物館の未来について（3）　（山根）
（11）まとめ　（井上）

これに見学を行う予定であるので、積極的な参加を望む。尚、交通費は自前である。

（講師）
尾谷雅彦（河内長野市教育委員会：桃大OB）
松永真純（大阪人権博物館学芸員：桃大OB）
山根啓史（NTT西日本：桃大OB）

※あくまで予定であり、講師や内容の変更の可能性がある。

【成績評価の方法】

受講態度及び出席点、レポート等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

資料を講義中に配布する。

【参考文献】

講義で案内する。

【備考】

インテグレーション科目

科　目　名			
共通自由特別講義－フィールドワーク入門			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	深　澤　　徹

【講義概要・学習目標】
地域社会でのフィールドワークを積極的に行なう、意欲的な学生を養成することを目標に、新たに設定された科目である。社会学の対象領域についてのリサーチ（調査・検証）作業や、データ（情報）収集、アンケート集計とその分析についての、方法論を概説する講義や、地域社会の様々な現場で、実践的な活動を行なっている、複数の外部講師によって、その体験の紹介が行なわれる。本講義は新しく設けられた試行的な科目なので、試行錯誤の連続となるかもしれない。受講生はそのことを踏まえて、意欲をもって参加して欲しい。

【授業計画】
複数の学内・学外のゲスト講師によって、フィールドワークに向けての基礎的な心構えや、現場の状況についての紹介が行なわれる。

【成績評価の方法】
毎回の出席と、最後に、地域社会の現場体験（その対象は各人の自由選択に任せる）を踏まえたレポートを課す。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献】
特に定めない。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
キリスト教学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	滝　澤　武　人

【講義概要・学習目標】
イエスという偉大な一人の人間の歴史的な姿を学問的に追い求めていくことがこの講義の目標です。私の「世界市民―キリスト教Ⅰ」という科目はイエスへの入門であり、この科目はそのイエス理解をさらに深めていくものです。もちろん、この科目だけを受講してもまったく問題はありません。
イエスはまさしく「現場の人」でした。さまざまな現場へと出て行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな活動を展開しました。イエスの仲間となったのは、その時代の「貧しい者」「小さい者」「弱い者」「罪ある者」「穢れた者」たち、すなわち、社会の最下層・最底辺で苦しんでいた人々でした。
イエスの有名な言葉のほとんどすべてが、そのような「貧困と差別」「病気と飢餓」「差別と抑圧」という厳しい現場の中から語られたものなのです。「求めよ、さらば与えられん！」も「右の頬を打たれたら、左の頬も向けよ！」も「汝の敵を愛せよ！」も、すべて現場で発言されたものです。現場におけるきわめて現実的な発言であったからこそ、2000年の時を隔ててもなお、驚くほど新鮮で豊かな感動と生命力が宿っているのでしょう。イエスの言葉は現代でもなお生きているのです。
イエスを歴史的に追求するためには、かなり慎重な手続きをふまえなければなりません。イエス自身が自分で本を書き残したわけではないからです。果たしてどれが本当のイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどういうつもりで語ったものなのか、しっかりと判断しなければなりません。それによって自分自身のイエス像をつかんでほしいと思います。
真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を大いに期待しています。世界の古典中の古典である聖書と偉人中の偉人であるイエスと真正面から格闘することによって、得るところもきっと大きいと思います。もちろん、「信仰」の有無とはまったく関係がなく、誰でもが自由に受講できます。

【授業計画】
全体的には、私の著書『イエスの現場～苦しみの共有』に基づいて講義します。

【成績評価の方法】
試験（40点）・レポート（40点）・平常点（20点）の予定です。最初の授業時間に公表説明しますので、必ず出席してください。

【テキスト】
滝澤武人『イエスの現場～苦しみの共有』（世界思想社）
新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
福音書のテキストを自分自身でしっかりと「読む」ことが中心的課題ですので、聖書と教科書を毎時間必ず持参してください。

【参考文献】
荒井献『イエスとその時代』（岩波新書）
田川建三『イエスという男』（作品社）
大貫隆『イエスという経験』（岩波書店）

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として　SS生は対象外
SS生は学科教育科目

科　目　名			
キリスト教史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	伊　藤　高　章

【講義概要・学習目標】
ユダヤ教、イスラム教、キリスト教は、世界の宗教の中で一つの系列に属し「一神教」の宗教と考えられている。これらの宗教の共通点と違いを、人類史の中で検証する。特に、現代社会の諸課題に、キリスト教がどのように取組んできたのかをめぐって、他宗教の取組みとの比較を通して考える。

【授業計画】
以下のテーマを含む。
1．宗教と現実社会
2．諸宗教の現世観、来世観
3．宗教とスピリチュアルケア
4．キリスト教の国家観とその歴史
5．キリスト教の福祉観とその歴史
6．キリスト教の戦争論とその歴史

【成績評価の方法】
1．最低20回の出席
2．３本の「批判的ブックレポート」
3．学年末試験

【テキスト】
初回授業で指示する。

【参考文献】
初回授業で指示する。

【備考】
Lesson (S) 内、伊藤高章のファイル (itotd) にある2005年度授業の資料も参照してください。

科　目　名			
銀行論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	中　野　瑞　彦

【講義概要・学習目標】
銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実践的に検証する。特に、1980年代以降の金融自由化と国際化の中で、日本の経済政策と金融政策がいかに変化してきたのか、日本の銀行はどのような行動をとってきたのか、その経済的影響はどんなものであったのかを検証・考察する。更に、バブル経済における経済政策と金融政策、銀行の行動を検証した上で、不良債権問題とその持つ意味について考察する。また、金融市場におけるリスクの増大、自己責任原則の拡大に鑑み、金融におけるリスクとその意味、現在進行している市場型間接金融システムの内容についても学習する。

【授業計画】
以下の項目につき、銀行と金融機関を巡る問題点を探求する。
1．銀行の仕組みと役割、金融政策における銀行機能の位置づけ
2．金利規制下での実体経済と銀行機能の関係
3．金融自由化と銀行経営の変化、公的金融との区別化
4．リスク・マネジメントとしての銀行の役割
5．バブル期の金融政策と銀行行動、及びその実体経済への影響
6．バブル崩壊後の金融危機問題
7．ゼロ成長下での銀行機能のあり方と銀行経営の展望
8．新たな金融システム（市場型間接金融）の仕組み

【成績評価の方法】
試験による

【テキスト】
後日指定する（生協にて販売予定）

【参考文献】
鹿野　嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
西村　吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）
津田　和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
堀内　昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科　目　名			
金融論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	木　村　二　郎

【講義概要・学習目標】
電子マネー、景気回復と金融政策正常化、金融グループの再編など、貨幣・金融に関するニュースを絶えず私たちは見聞きする。このような現代の経済社会を理解する際に、貨幣・金融に関する知識や理論は必要不可欠である。この講義では、貨幣・金融に関する基礎理論、現代金融と日本経済、情報化・グローバル化と現代金融を３つの柱にして解説していく。貨幣・金融に関する理論・政策・制度・歴史を日本経済と世界経済の新しい動向を踏まえて、出来るだけ分かりやすく講義する予定である。学習目標は、新聞・テレビなどの経済ニュースが簡単に理解できるような基礎的な力を養い、経済社会についての見識を持てるようになることである。

【授業計画】
テキストに沿って、第Ⅰ部「現代金融の基礎」を10回、第Ⅱ部「現代金融と日本経済」を10回、第Ⅲ部「情報化・グローバル化と現代金融」を８回に分けて講義を進める予定である。また、適宜小テストを実施して、理解度を確認する。

【成績評価の方法】
学年末試験を基本に据えたうえで、授業時間に実施する小テストを加味して総合的に評価する。

【テキスト】
川波洋一・上川孝夫編『現代金融論』有斐閣ブックス、2004年。

【参考文献】
関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年。
日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2004年。
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2006年度版）』日本経済新聞社、2006年。

科　目　名			
ケアマネジメント			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	川　井　太加子

【講義概要・学習目標】
講義では、利用者の自立支援に向けた目標指向型プランについて、要介護等高齢者の機関、在宅で活用されているチャートを利用して、ケアマネジメントの手法や過程を、講義･演習を交えて学習する。事例については、実践現場で活躍されている専門職を招いて具体的なケアマネジメントについて学ぶ。
　なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開港までに終了予定の人の履修を希望します。

【授業計画】
１、オリエンテーション　ケアマネジメントとは何か、その必要性
２、介護保険におけるケアマネジメント
３、支援費制度における障害者ケアマネジメント
４、ケアマネジメントの援助過程（１）
５、ケアマネジメントの援助過程（２）
６、ケアマネジメントと社会資源
７、ケアマネジメントと家族支援
８、ケアマネジメント（事例１）高齢者
９、ケアマネジメント（事例２）障害者
10、ケアマネジメント（事例３）精神障害者
11、ケアマネジメント（事例４）知的障害者
12、サービス担当者会議、福祉・医療・保健の連携について
13、まとめ
14、まとめ
15、テスト

【成績評価の方法】
授業への参加度、出席、テストにより総合的に評価する。

【参考文献】
初回講義で指示する。

科目名			
経営学			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	村上伸一

【講義概要・学習目標】

多くの皆さんは卒業後，会社や官公庁などに就職したり，あるいはベンチャー企業を起業したり,NPOを立ち上げたりするでしょう。しかし，あなたは会社や官公庁,NPOなどの組織について，高校生よりもどれくらい多くそして深く知っていますか？

現代社会は膨大な数の組織から成立しています。この講義では，現代産業社会の構成に不可欠な企業を主たる考察対象にして，組織の本質，組織の運営（経営管理），組織の戦略について，主に日米のビジネス・ワールドを概観しながら，基礎的な考察を進めていきます。

好むと好まざるとにかかわらず，この世に生を受けた以上，私たちはこの組織社会を生き抜いていかなければなりません。経営学の基礎を学ぶことは，現代社会人の基本的教養を身につけることになると私は確信しています。学習においては幅広く知識を身につけることよりも，できるだけじっくり考えることを重視する予定です。そして，何よりも知的なおもしろさを感じていただく。これが当面の最大の学習目標です。

【授業計画】

オリエンテーション
イントロダクション：この講義の構成と基本的視座
1．現代産業社会に生きる私たちと組織
2．経営と経営学
3．組織とは何だろうか
4．組織はどのように経営管理されているのだろうか
5．組織の戦略とは何か
コンクルージョン
(時間の関係で一部スキップすることがあります。)

【成績評価の方法】

試験成績により評価します。ビデオや教科書を利用して，ミニレポートを講義中に書いていただき，それを評価に若干加える可能性もあります。

【テキスト】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂三版）』創成社，2003年。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名			
経営学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	岸本裕一
02	秋学期	2単位	岸本裕一
03	秋学期	2単位	武田久義
04	秋学期	2単位	武田久義

【講義概要・学習目標】

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいか、という点についても、ガイドします。
この講義を履修し終わった人が、１年後期（第２セメスター）から自覚を持って、みずからの判断で積極的なキャリア形式（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形式）に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

【授業計画】

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

1．経営学、商学とはどんな学問か―全体的見取り図(経営学総論、経営学史、経営史、商学の主内容)
2．会社の仕組みはどのようになっているのかについての知識を学ぶ―企業論
3．会社を運営するにあたって知っておかねばならない知識を学ぶ―経営管理論
4．ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかについての知識を学ぶ―経営労務論
5．会社ではどのようにしてモノを作っているかについての知識を学ぶ―生産管理論
6．商品流通の仕組みと販売に関する一切の知識を学ぶ―流通論、マーケティング論
7．お金をどう集め・運用するかについての知識を学ぶ―経営財務論
8．金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についての知識を学ぶ―銀行論・保険論・証券論
9．国際化時代の会社はどう変わってきているかについての知識を学ぶ―国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10．中小企業の直面する問題と起業家についての知識を学ぶ―中小企業論
11．組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についての知識を学ぶ―組織倫理学
12．大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう―環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13．現代版の読み・書き・そろばんの武器を身につけよう―実務英語、情報諸科目、情報収集能力、リーダーシップ能力、戦略作成能力
14．就職活動・キャリア形成は入学時から始まっている―経営学部卒が有利な職業の紹介、学科目履修との関係づけ、就職課職員の話
を聴く
15．自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

【成績評価の方法】

①期末テストの結果
②講義中に随時指示する提出レポート
などによる総合評価とします。

【テキスト】

最初の時間にテキストを配付します。

【参考文献】

●特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。

科　目　名			
経営学史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	野　田　俊　範

【講義概要・学習目標】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、それの社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【授業計画】

Ⅰ.経営学史の方法
　1.経営学史研究の意義
　2.経営学史研究の課題
Ⅱ.ドイツ経営学の発展
　1.私経済学の成立
　2.経営経済学の確立
　3.経営社会学の成立
　4.経営経済学の展開
　5.転換期の経営経済学
Ⅲ. 現代のドイツ経営学
　1.ドイツ経営学の新展開
　2.ドイツ経営学の意義と課題

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科　目　名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期集中	4単位	谷　口　照　三

【講義概要・学習目標】

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で充分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。

その際、いくつかの点を考慮する必要がある。とりわけ、以下の２つの視座ないし態度が重要である。まず第１に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業の関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な２つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。

【授業計画】

1. 生活を支える企業　(第1,2回)
2. 環境の変化と企業経営　(第3,4回)
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義　(第5,6回)
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか　(第7,8回)
5. 企業は何をめざして活動しているのか　(第9,10回)
6. 企業が利用できる経営資源にはどのようなものがあるか　(第11, 12回)
7. 企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか　(第13, 14回)
8. 企業の組織はどのように動いているのか　(第15, 16回)
9. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか　(第17,18回)
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか (第19, 20回)
11. 組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか　(第21,22回)
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか　(第23, 24回)
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか (第25, 26回)
14. 21世紀的文脈と経営学の新しい視座　(第27回)
15. 経営学の21世紀的課題　(第28回)

【成績評価の方法】

出席状況と試験によって評価する。

【テキスト】

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺　峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2000年。

【参考文献】

1. 片岡・齋藤・佐々木・高橋・渡辺編『ベイシック経営学辞典』中央経済社、2600円
2. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3. 二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

【備考】

＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｂ生対象外
Ｂ生は学科教育科目

科目名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	片岡信之

【講義概要・学習目標】
この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。
したがって、本講義の目標もその点におかれることなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。
経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。
ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後４年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を１年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

【授業計画】
テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。
1．生活を支える企業
2．環境の変化と企業経営
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4．企業は誰が経営し、動かしているのか
5．企業は何を目指して活動しているのか
6．企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7．企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

【成績評価の方法】
①期末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかり要点のノートを取っているかどうか）、③講義中の小テスト受けているかどうか、などによる総合評価とします。
概ね期末テスト結果６割、その他４割の比重で評価をします。特にノートを重視しますが、あきらかに他人のノートを丸写ししただけと判定できるものについては、写した方と写させた方の両方のノートを採点対象から除外します。
講義はテキストに沿ってしますが、テキストに書いていないことも当然話しますから、試験直前にテキストを纏めるだけでは、十分でありません。なお、ノートは翌年度の新学期に返却します。

【テキスト】
片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺　峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2004年。

【参考文献】
特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎのいずれかが、値段も手頃で良いでしょう。難易度は１→２→３の順に難しくなっています。
1．片岡・齋藤・佐々木・高橋・渡辺編『ベイシック経営学辞典』中央経済社、2600円
2．吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3．二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、Ｂ生対象外
Ｂ生は学科教育科目

科目名			
経営学特別講義－日本の銀行の概要			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期	2単位	深谷清之

【講義概要・学習目標】
1．Abstract of the lecture
This lecture gives students the abstract knowledge on banking industry in Japan.
Especially this lecture is basing on the comparison between Japanese banking industries and European industries, United States industries. And this lecture is focusing on the banking industries and their business processes.

2．Methods of the lecture
This lecture is presented by PowerPoint presentations and handouts at every class.
At final, all students should submit a report on the required subject for credits.

3．Attentions for the lecture
There are no attentions for the lecture such as preparations, bringing materials, and so on.

【授業計画】
1．Schedule of the lecture
1) Introduction of the lecture and Banking industry in Japan
2) History of Banking industry in Japan
3) The comparison of banking industry between Japan and Europe, United States
4) Deposit business
5) Loan business
6) Payment and settlement business
7) Investment business
8) Delivery channels in Banking business
9) Customer Relationship Management in Banking business
10) Hot issues in Banking business; Bad Debt
11) Hot issues in Banking business; Capital and BIS regulation
12) Closing the lecture

【成績評価の方法】
Credits will be given by the points of attendance to the lecture and a report.

【テキスト】
There are no texts for this lecture. Every class students will get the handouts.

【備考】
英語による授業です

か行

科　目　名			
経営学特別講義－日本の金融業界の概要			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	深　谷　清　之

【講義概要・学習目標】

1. Abstract of the lecture
This lecture gives students the abstract knowledge on financial industry in Japan.
Especially this lecture is basing on the comparison between Japanese industries and European industries, United States industries. And this lecture is also basing on the banking, securities, and insurance industries.

2. Methods of the lecture
This lecture is presented by PowerPoint presentations and handouts at every class.
At final, all students should submit a report on the required subject for credits.

3. Attentions for the lecture
There are no attentions for the lecture such as preparations, bringing materials, and so on.

【授業計画】

1. Schedule of the lecture
1) Introduction of the lecture and financial industry in Japan
2) Introduction of banking industry in Japan
3) The comparison of banking industry between Japan and Europe, United States
4) Abstract of banking business in Japan
5) Introduction of securities industry in Japan
6) The comparison of securities industry between Japan and Europe, United States
7) Abstract of securities business in Japan
8) Introduction of insurance industry in Japan
9) The comparison of insurance industry between Japan and Europe, United States
10) Abstract of insurance business in Japan (Life insurance)
11) Abstract of insurance business in Japan (Non life insurance)
12) Closing the lecture

【成績評価の方法】

Credits will be given by the points of attendance to the lecture and a report.

【テキスト】

There are no texts for this lecture. Every class students will get the handouts.

【備考】

英語による授業です

科　目　名			
経営学特講－CSRと経営革新（Ⅰ）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	谷　口　照　三

【講義概要・学習目標】

今日、再び、世界で「企業の社会的責任」がクローズアップされている。「企業の社会的責任」は英語では Corporate Social Responsibility である。今日では、「企業の社会的責任」を CSR と表現することが一般的となった。この問題が世界的に話題となったのは、1960 年代の後半から 1970 年代の初期にかけてであり、それは主として公害問題が契機となった。その後、1970年代の中頃から 1980年代に「企業の文化活動」や「フィランソロピィー」（いずれも企業の社会への寄付や奉仕活動による社会貢献活動）が、1990 年から今日まで「地球環境問題」、「企業倫理問題」、「コーポレート・ガバナンス（企業統治）問題」が議論されてきた。今日のCSR への世界での関心の高まりには、これらの関連する議論を踏まえ、「企業の経営責任」を総合的に問いなおそうとの問題意識が横たわっているように思われる。特に、ヨーロッパでの CSR への取り組みは、この意識が強く、かつそこに留まらず、「企業経営の根本的改革」を「多様なパートナーシップによる新しい社会の創造」という文脈のなかで捉え、実践しようとしている。日本においても、代表的企業約100社は、このような動向を真摯に捉え、実践しつつある。注目すべき点は、このような問題の理解とそれへの応答をより確かにすべく、従来型のいわゆる「社内教育」を大胆に削除しているにもかかわらず、「経営倫理やCSRに関する教育」に積極的に多くのさまざまな資源を投入し始めたことである。

かかる情勢のなか、大学生がこの問題に無関心であったり、また、さらに重要な点であるが、大学がこの種の教育機会を提供できないと言う状況では、問題である。我々は、上述した諸問題が浮上する文脈、及びかかる諸問題への応答の実態を理解、解釈し、将来を展望する機会を大学生に提供する義務と責任がある、と強く思う。この講義では、「CSRの理論と実践が如何にあるいはどの様に経営革新につながっていくのか」を日本とヨーロッパの動向を比較検討し、将来への課題を提示することにしたい。

講師陣は、若干の大学の研究者を含めるが、最新の情報を提供してもらい、このテーマに関する将来展望を共に考えていくために、企業や NPO で現在この種の問題に係わっている人、またかつて係わり現在は独自に活躍している人を中心に構成する予定である。

【授業計画】

1. 講義の意図と目的
2. 学問と経営世界―21世紀における経営学―
3. 経営と社会―経営実践の社会的意義と経営革新―
4. 人間と経営―「人間を生かす経営」と「経営を生かす人間」―
5. CSRを巡る社会的歴史的背景
6. CSRに関する世界の動向（1）USA
7. CSRに関する世界の動向（2）EU
8. CSRに関する世界の動向（3）UK
9. CSRに関する世界の動向（4）Germany
10. CSRに関する世界の動向（5）Asia
11. CSRに関する世界の動向（6）China
12. CSRに関する世界の動向（7）Korea
13. CSRに関する世界の動向（8）Japan
14. まとめと総括的ディスカッション

【成績評価の方法】

出席状況と試験の結果で評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回レジュメないし資料を配付する。

【参考文献】

A　各企業のホームページで「環境・社会報告書」ないし「社会報告書」あるいは「サステナブル報告書」等のSCR関係の報告書を閲覧することを進める。
B　伊吹英子著『CSR経営戦略』東洋経済新報社、2005年。
C　岸田眞代編著『NPOからみたCSR』同文館、2005年。
D　水尾順一・田中宏司編著『CSRマネジメント』生産性出版、

2004年。
E　高　巌・辻　義信・Scott T. Davis・瀬尾隆史・久保田政一共著『企業の社会的責任』日本規格協会、2003年。
F　その他適時提示する。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
経営学特講－CSRと経営革新（Ⅱ）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	谷　口　照　三

か行

【講義概要・学習目標】
今日、再び、世界で「企業の社会的責任」がクローズアップされている。「企業の社会的責任」は英語では Corporate Social Responsibility である。今日では、「企業の社会的責任」を CSR と表現することが一般的となった。この問題が世界的に話題となったのは、1960 年代の後半から 1970 年代の初期にかけてであり、それは主として公害問題が契機となった。その後、1970年代の中頃から 1980年代に「企業の文化活動」や「フィランソロピィー」（いずれも企業の社会への寄付や奉仕活動による社会貢献活動）が、1990 年から今日まで「地球環境問題」、「企業倫理問題」、「コーポレート・ガバナンス（企業統治）問題」が議論されてきた。今日のCSR への世界での関心の高まりには、これらの関連する議論を踏まえ、「企業の経営責任」を総合的に問いなおそうとの問題意識が横たわっているように思われる。特に、ヨーロッパでの CSR への取り組みは、この意識が強く、かつそこに留まらず、「企業経営の根本的改革」を「多様なパートナーシップによる新しい社会の創造」という文脈のなかで捉え、実践しようとしている。日本においても、代表的企業約100社は、このような動向を真摯に捉え、実践しつつある。注目すべき点は、このような問題の理解とそれへの応答をより確かにすべく、従来型のいわゆる「社内教育」を大胆に削除しているにもかかわらず、「経営倫理やCSRに関する教育」に積極的に多くのさまざまな資源を投入し始めたことである。
かかる情勢のなか、大学生がこの問題に無関心であったり、また、さらに重要な点であるが、大学がこの種の教育機会を提供できないと言う状況では、問題である。我々は、上述した諸問題が浮上する文脈、及びかかる諸問題への応答の実態を理解、解釈し、将来を展望する機会を大学生に提供する義務と責任がある、と強く思う。この講義では、「CSRの理論と実践が如何にあるいはどの様に経営革新につながっていくのか」を日本とヨーロッパの動向を比較検討し、将来への課題を提示することにしたい。
講師陣は、若干の大学の研究者を含めるが、最新の情報を提供してもらい、このテーマに関する将来展望を共に考えていくために、企業や NPO で現在この種の問題に係わっている人、またかつて係わり現在は独自に活躍している人を中心に構成する予定である。

【授業計画】
1．CSRを語る文脈と視座
2．日本における主要企業の動向（1）
3．日本における主要企業の動向（2）
4．日本における主要企業の動向（3）
5．政府・自治体・経済団体とCSR
6．NPOとCSR
7．監査役とCSR
8．経営コンサルタントとCSR
9．企業倫理担当者とCSR
10．経営者とCSR
11．CSRに関する理論的再構成（1）：経済学的視座とCSR
12．CSRに関する理論的再構成（2）：Risk Managementの視座とCSR
13．CSRに関する理論的再構成（3）：組織論的視座とCSR
14．CSRに関する理論的再構成（4）：拡張された経営学的CSR論の構想と総括的ディスカッション

【成績評価の方法】
出席状況と試験によって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
A　各企業のホームページで「環境・社会報告書」ないし「社会報告書」あるいは「サステナブル報告書」等のSCR関係の報告書を閲覧することを進める。
B　伊吹英子著『CSR経営戦略』東洋経済新報社、2005年。
C　岸田眞代編著『NPOからみたCSR』同文館、2005年。

D　水尾順一・田中宏司編著『CSRマネジメント』生産性出版、2004年。
E　高　巌・辻　義信・Scott T. Davis・瀬尾隆史・久保田政一共著『企業の社会的責任』日本規格協会、2003年。
F　その他適時提示する。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
経営学特講－英文簿記会計			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	朴（パク）　大（テ）　栄（ヨン）

【講義概要・学習目標】
ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。
国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、毎年数多くの受験生を出している。受験者は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。
本講義は、このBATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されている。講義を担当するのは、国際業務に関わってきた公認会計士の皆さんである。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、「商業簿記」を履修済みであること、ないし日商簿記検定試験３級合格を履修条件としている。国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（企業情報の開示と税制：日本）を受講することを勧める。

【授業計画】
1. Basic Concept of Bookkeeping Business Transaction
2. The Accounting Cycle and Controlling System, Accounting Structure, Recording Financial Transaction
3. Adjusting and Closing Entries, Preparation of the Worksheet, Financial Statements
4. Financial Accounting and Reporting, Financial Statements
5. Cash, Account Receivable
6. Inventories, Property, Plan and Equipment
7. Intangible Assets Investments
8. Liabilities, Stockholder’s Equity
9. Translation of Foreign Currency Statements, Statement of Cash Flows
10. Business Combinations
11. Interim Financial reporting and Segment Information, Accounting Change and Correction Errors, Time Value of Money

【成績評価の方法】
学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【テキスト】
BATIC公式テキスト『Subject １』東京商工会議所

【参考文献】
講義中に適宜指示する

【備考】
インテグレーション科目
英語による授業です